

審査意見への対応を記載した書類（7月）

（目次） 医療科学研究科 看護学専攻（M）

1. 教育課程の編成の考え方において、「本専攻の教育課程を『療養生活支援看護学分野』と『地域生活支援看護学分野』の2分野を柱として編成した」とあるが、どのような考え方に基づきこの2分野が設定されたのか不明確であることから、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの関係も踏まえつつ、明確に説明すること。（是正事項）・・・1
2. 本専攻が所在する足立区周辺においては、高齢化率・生活保護率とも高く、医療問題を抱えている住民が多い地域であり、こうした様々な健康問題を抱えた人々の「療養生活」を支え、人々が健康的に「地域生活」を営むための支援が重要であることが説明されている。本専攻の養成する人材像において、こうした地域特性がどのように反映されているのか不明確であることから、このことについて説明すること。（是正事項）・・・2
3. 「療養生活支援看護学分野」及び「地域生活支援看護学分野」の両分野にわたり履修モデルが複数例示されているものの、「修了者の進路及び見通し」の記載は、一般的な内容にとどまっていることから、本専攻として、どのような人材を輩出する見通しであるのかをより具体的に示すこと。（是正事項）・・・3
4. シラバスの記載方法に関して、「看護学研究法特論」、「療養生活支援看護学総論」等、各回の授業計画が不明瞭な科目が複数見受けられることから、各回の授業内容をより明確に記載するなど適切に改めること。（是正事項）・・・4
5. 「看護学特別研究Ⅰ」については、必修の通年科目として設定されており、かつ次年次の「看護学特別研究Ⅱ」にわたり連続性をもって履修するよう設計されているため、論文作成のスケジュール設定の妥当性にも留意しながら、「研究計画発表会」の位置付けが明確になるようシラバスの内容を改めた上で、科目の到達目標や評価方法を具体的に示すこと。（是正事項）・・・5

6. 「現職の看護職者である社会人に門戸を開放する教育機関を目指している」
との記載がなされているが、授業の開始時間の設定が社会人を対象とするもの
として適切であるか疑義があることから、社会人学生への支援体制や配慮の方
策について具体的に示すこと。また、教員負担への配慮に関し、既設の学部教
育及び管理運営業務等を含めた全体の負担量が不明であるため、専任教員ごと
の負担量が分かる資料を示すこと。(是正事項) 7

7. 研究倫理審査体制について、学内者のみで構成されており、中立性の確保の
観点から、適切に改めることが望まれる。(改善事項) 8

8. 教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏
まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、
対応方針について回答すること。(是正事項) 9

1. 教育課程の編成の考え方において、「本専攻の教育課程を『療養生活支援看護学分野』と『地域生活支援看護学分野』の2分野を柱として編成した」とあるが、どのような考え方に基づきこの2分野が設定されたのか不明確であることから、養成する人材像やディプロマ・ポリシーとの関係も踏まえつつ、明確に説明すること。

(対応)

超高齢社会、少子・多死社会の我が国の現状は、医療にも多大な影響を及ぼし、医療の受け皿として病院から地域へ、そして治す医療から支える医療の変換が求められている。医療の高度化や先進的医療の発展は人々に大きな貢献をもたらしたが、一方で様々な倫理的な問題や、病や障がいを抱えたまま生きなければならない状況をも生み出したと言える。こうした人々に寄り添い、当事者にとってのQOLの向上に看護は貢献していく責務がある。さらに人々の健康問題の捉え方を個人的な問題という側面だけではなく、社会的な側面としても捉え、看護は人々のおかれている環境に働きかけ、健康増進、疾病予防・重症化予防にも取り組む責務もある。

このような中で、人々の尊厳ある生を支えるために、それぞれの健康レベルに即した「療養生活」と、様々なニーズをもつ当事者の意思を尊重して、希望する場での「地域生活」が円滑に送れるための知見が求められる。加えて、当事者やその家族が「療養生活」と「地域生活」が円滑に送れるために、援助者は専門的な援助技術と知識、そして高い倫理観を兼ね備えた態度がとれることが必要である。

以上の社会的背景を基にして、本専攻の教育課程を「療養生活支援看護学分野」と「地域生活支援看護学分野」の2分野を柱として編成し、「設置の趣旨等を記載した書類」に次のとおり記載した。

本専攻の教育課程を、小児看護、高齢者看護、終末期看護を専門とする教員を中心に配置し、主に病や障がいを抱えながらも当事者やその家族が自ら望む生活を送ること、または人生の最期までその人らしく生活することを可能とするための専門的知識を教授する「療養生活支援看護学分野」と、精神看護、地域看護、母性看護を専門とする教員を配置し、主に社会から孤立しがちな当事者やその家族が安心して生活を送ることを可能とするための専門的知識を教授する「地域生活支援看護学分野」の2分野を柱として編成した。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (9ページ)

新	旧
<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程の編成の基本的な考え方 ・ ・ ・ 健康増進、疾病予防・重症化予防にも取り組む責務もある。 このような中で、<u>人々の尊厳ある生を支えるために、それぞれの健康レベルに即した「療養生活」と、様々なニーズをもつ当事者の意思を尊重して、希望する場での「地域生活」が円滑に送れるための知見が求められる。加えて、当事者やその家族が「療養生活」と「地域生活」が円滑に送れるために、援助者は専門的な援助技術と知識、そして高い倫理観を兼ね備えた態度がとれることが必要である。</u> そこで、<u>それらを深く探求するため、本専攻の教育課程を、小児看護、高齢者看護、終末期看護を専門とする教員を中心に配置し、主に病や障がいを抱えながらも当事者やその家族が自ら望む生活を送ること、または人生の最期までその人らしく生活することを可能とするための専門的知識を教授する「療養生活支援看護学分野」と、精神看護、地域看護、母性看護を専門とする教員を配置し、主に社会から孤立しがちな当事者やその家族が安心して生活を送ることを可能とするための専門的知識を教授する「地域生活支援看護学分野」の2分野を柱として編成した。</u> 科目構成では、 ・ ・ ・</p>	<p>4 教育課程の編成の考え方及び特色 (1) 教育課程の編成の基本的な考え方 ・ ・ ・ 健康増進、疾病予防・重症化予防にも取り組む責務もある。 このような中で、様々な健康問題を抱えた人々の「療養生活」を支え、人々が健康的に「地域生活」を営むための支援が重要である。そこで、それらを深く探求するため、本専攻の教育課程を「療養生活支援看護学分野」と「地域生活支援看護学分野」の2分野を柱として編成した。 科目構成では、 ・ ・ ・</p>

(是正事項) 医療科学研究科 看護学専攻 (M)

2. 本専攻が所在する足立区周辺においては、高齢化率・生活保護率とも高く、医療問題を抱えている住民が多い地域であり、こうした様々な健康問題を抱えた人々の「療養生活」を支え、人々が健康的に「地域生活」を営むための支援が重要であることが説明されている。本専攻の養成する人材像において、こうした地域特性がどのように反映されているのか不明確であることから、このことについて説明すること。

(対応)

本専攻の養成する人材像において、地域特性がどのように反映されているのか明確にするために、「設置の趣旨を記載した書類」に次のとおり社会的背景と人材養成の目的について記載した。

社会的背景

「区東北部の足立区における病院の基本方針」によると、200床未満の病院が多く、300床以上の病院が極めて少なく、周辺区も同様の傾向である。救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診察連携拠点病院、緩和ケア病棟、地域周産期母子医療センターの設置がないことが指摘されており、救急医療の充実、災害時の医療の充実、周産期医療の充実、小児医療体制の充実、がん診療機能の充実、医療機能の分化、在宅医療の充実、人材の確保・育成が喫緊の課題である。

足立区北千住にある本専攻では、様々な病や障がいをもつ人が、シームレスに医療機関から地域の生活へと移行できるために「人々が病や障がいもちながら最期まで安心できる療養生活を支える実践能力」及び医療や介護をはじめとする様々な社会的な問題を抱えた人々を支えるために「疾病予防や健康増進のための環境を改善する実践能力」を養成する高度専門職業人を育成する必要がある。

人材養成の目的

本専攻は、生命の尊厳を基盤とし、地域課題でもある医療機関から地域生活への円滑な移行と、様々な社会的な問題を抱える人々の療養生活を支えることが必要であり、そのために看護学を実践的・創造的に発展させ、複雑化・高度化している医療・社会環境の中で、多様化するニーズに対応できる看護分野における高度な専門性を兼ね備えた高度専門職業人の育成を目的とする。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (3～4ページ)

新	旧
<p>1) 大学院医療科学研究科看護学専攻設置の社会的背景 ・・・・医療施設、医療従事者も少ない地域であるといえる。 さらに、「区東北部の足立区における病院の基本方針」によると、200床未満の病院が多く、300床以上の病院が極めて少なく、周辺区も同様の傾向である。救命救急センター、地域医療支援病院、地域がん診察連携拠点病院、緩和ケア病棟、地域周産期母子医療センターの設置がないことが指摘されており、救急医療の充実、災害時の医療の充実、周産期医療の充実、小児医療体制の充実、がん診療機能の充実、医療機能の分化、在宅医療の充実、人材の確保・育成が喫緊の課題である。</p> <p>足立区北千住にある本専攻では、様々な病や障がいをもつ人が、シームレスに医療機関から地域の生活へと移行できるために「人々が病や障がいもちながら最期まで安心できる療養生活を支える実践能力」及び医療や介護をはじめとする様々な社会的な問題を抱えた人々を支えるために「疾病予防や健康増進のための環境を改善する実践能力」を養成する高度専門職業人を育成する必要がある。</p> <p>上記のように、大学所在区及び周辺区は、・・・</p>	<p>1) 大学院医療科学研究科看護学専攻設置の社会的背景 ・・・・医療施設、医療従事者も少ない地域であるといえる。 上記のように、大学所在区及び周辺区は、・・・</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (6ページ)

新	旧
<p>(4) 養成する人材像 ・・・・本専攻は、生命の尊厳を基盤とし、地域課題でもある医療機関から地域生活への円滑な移行と、様々な社会的な問題を抱える人々の療養生活を支えることが必要であり、そのために看護学を実践的・創造的に発展させ、複雑化・高度化している医療・社会環境の中で、多様化するニーズに対応できる看護分野における高度な専門性を兼ね備えた高度専門職業人の育成を目的とする。</p>	<p>(4) 養成する人材像 ・・・・本専攻は、生命の尊厳を基盤とし、看護学を実践的・創造的に発展させ、複雑化・高度化している医療・社会環境の中で、多様化するニーズに対応できる看護分野における高度な専門性を兼ね備えた高度専門職業人の育成を目的とする。・・・</p>

(是正事項) 医療科学研究科 看護学専攻 (M)

3. 「療養生活支援看護学分野」及び「地域生活支援看護学分野」の両分野にわたり履修モデルが複数例示されているものの、「修了者の進路及び見通し」の記載は、一般的な内容にとどまっていることから、本専攻として、どのような人材を輩出する見通しであるのかをより具体的に示すこと。

(対応)

6つの履修モデル毎に本専攻の修了生の具体的な進路について次のとおり、「設置の趣旨等を記載した書類」に明記した。

本専攻の修了生は、以下の活躍が期待される。

- 1) 認知症がありながらも高齢者の意思が尊重された生活が送れるような高度な専門的知識を持つ看護職者として、訪問看護ステーションや高齢者施設などで中心的な役割を担える人。
- 2) 終末期にある人やその家族に対する高度な緩和ケアの専門的知識をもつ看護職者として、在宅ホスピスケアや緩和ケア病棟などで中心的な役割を担える人。
- 3) 病や障がいをもって生活する子どもやその家族に対する高度な専門的知識を持つ看護職者として、小児病棟や在宅ケアで中心的な役割を担える人。
- 4) 多様な療養生活の場における調整役として高度な専門的知識を持つ看護職者として、保健センターや訪問看護ステーションなどで中心的な役割を担える人。
- 5) 精神の病や障がいをもつ人やその家族が安心して生活できる場を提供できるような高度な専門的知識を持つ看護職者として、精神保健センターや精神専門の訪問看護ステーションなどで中心的な役割を担える人。
- 6) 健全な母子の生活を支えるための高度な専門的知識を持つ看護職者として、母子保健センターや助産院などで中心的な役割を担える人。
- 7) 教育者・研究者として看護系大学や研究機関に勤務
- 8) 大学院（博士課程）へ進学など

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料（7ページ）

新	旧
<p>(5) 修了者の進路及び見通し 本専攻の修了生は、以下の活躍が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) <u>認知症がありながらも高齢者の意思が尊重された生活が送れるような高度な専門的知識を持つ看護職者として、訪問看護ステーションや高齢者施設などで中心的な役割を担える人。</u> 2) <u>終末期にある人やその家族に対する高度な緩和ケアの専門的知識をもつ看護職者として、在宅ホスピスケアや緩和ケア病棟などで中心的な役割を担える人。</u> 3) <u>病や障がいをもって生活する子どもやその家族に対する高度な専門的知識を持つ看護職者として、小児病棟や在宅ケアで中心的な役割を担える人。</u> 4) <u>多様な療養生活の場における調整役として高度な専門的知識を持つ看護職者として、保健センターや訪問看護ステーションなどで中心的な役割を担える人。</u> 5) <u>精神の病や障がいをもつ人やその家族が安心して生活できる場を提供できるような高度な専門的知識を持つ看護職者として、精神保健センターや精神専門の訪問看護ステーションなどで中心的な役割を担える人。</u> 6) <u>健全な母子の生活を支えるための高度な専門的知識を持つ看護職者として、母子保健センターや助産院などで中心的な役割を担える人。</u> 7) 教育者・研究者として看護系大学や研究機関に勤務 8) 大学院（博士課程）へ進学など 	<p>(5) 修了者の進路及び見通し 本専攻の修了生は、以下の活躍が期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高度な専門的知識を持つ看護職者として、医療機関、訪問看護ステーション等に勤務 2) 教育者・研究者として看護系大学や研究機関に勤務 3) 大学院（博士課程）へ進学など

(是正事項) 医療科学研究科 看護学専攻 (M)

4. シラバスの記載方法に関して、「看護学研究法特論」、「療養生活支援看護学総論」等、各回の授業計画が不明瞭な科目が複数見受けられることから、各回の授業内容をより明確に記載するなど適切に改めること。

(対応)

審査意見を踏まえ、シラバスの授業計画が不明瞭な科目について、別紙1のとおり修正した。

(新旧対照表) シラバス

新	旧
別紙資料参照	別紙資料参照

5. 「看護学特別研究Ⅰ」については、必修の通年科目として設定されており、かつ次年次の「看護学特別研究Ⅱ」にわたり連続性をもって履修するよう設計されているため、論文作成のスケジュール設定の妥当性にも留意しながら、「研究計画発表会」の位置付けが明確になるようシラバスの内容を改めた上で、科目の到達目標や評価方法を具体的に示すこと。

(対応)

「研究計画発表会」の位置付けが明確になるようシラバスの内容を改めた上で、科目の到達目標や評価方法を具体的に次のとおり修正するとともに、「設置の趣旨等を記載した書類(資料含む)」を修正した。(別紙2) (別紙3)

シラバス及び入学から修了までのスケジュール資料には、学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行うこと及び研究計画発表会は研究活動の進捗状況の確認及び研究内容についての指導のために実施するものであり、その内容についての評価は行わないことを記載した。

看護学特別研究Ⅰ

【到達目標】

1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を設定できる。
2. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを明確化できる。
3. 研究課題を解明するため適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。

【計画・内容】

特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。

1. 研究の意図と研究課題の決定
2. 研究計画の立案
3. 研究計画書の作成の指導
4. データ収集・分析の討議
5. 研究計画発表会に向けての指導

※学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行う。

【成績評価方法】

文献検索・検討(30%)、研究デザイン(30%)、研究計画書の作成(40%)

※研究計画発表会は研究活動の進捗状況の確認及び研究内容についての指導のために実施するものであり、その内容についての評価は行わない。

看護学特別研究Ⅱ

【到達目標】

1. 対象者に倫理的に配慮をしたうえで適切な研究方法を用いてデータを収集し、客観的・科学的に分析できる。
2. 研究成果を分かりやすく記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる。

【計画・内容】

特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。

1. 研究計画書に基づいたデータ収集と分析の指導
2. 修士論文中間発表会に向けての指導
3. 修士論文の提出に向けての指導
4. 修士論文発表会における発表に向けての指導
5. 審査委員会による審査と指導
6. 修士論文(最終提出)に向けての指導
7. 修士論文の公表

【成績評価方法】

修士論文発表会、修士論文を総合的に評価する。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (15ページ)

新	旧
<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>2) 学位論文の指導体制、指導プロセス 本研究科学生の専門分野の研究及び授業科目の履修を指導するために、学生の研究課題を勘案し、学生ごとに指導教員を研究科委員会の議を経て選出する。学生は指導教員と面談し、十分な文献検討を行うとともに、理論的な枠組みや研究デザインを検討の上、実行可能な研究課題を決定する。研究課題決定後は、指導教員の指導に基づいて概念枠組みや研究デザインを検討の上、適切な研究計画を立てる。立案した研究計画については立案した研究計画についてはその時点での研究内容・進捗状況を確認するため、研究計画発表会で発表し、その際の指導により研究計画の修正を行い、修正した研究計画書を研究倫理委員会に提出し審査を経て、確定した研究計画に従い具体的に研究を遂行する。その後、進捗状況の確認を含めた中間発表会を実施することにより、自身の研究を整理するとともに指摘された問題点については論点の明確化と適切な修正を行い、論文にまとめて提出する【資料7：入学から修了までのスケジュール】。</p>	<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>2) 学位論文の指導体制、指導プロセス 本研究科学生の専門分野の研究及び授業科目の履修を指導するために、学生の研究課題を勘案し、学生ごとに指導教員を研究科委員会の議を経て選出する。学生は指導教員と面談し、十分な文献検討を行うとともに、理論的な枠組みや研究デザインを検討の上、実行可能な研究課題を決定する。研究課題決定後は、指導教員の指導に基づいて概念枠組みや研究デザインを検討の上、適切な研究計画を立てる。立案した研究計画については研究計画発表会で発表し、その際の指導により修正及び研究倫理審査を経て、確定した研究計画に従い具体的に研究を遂行する。その後、修士論文中間発表会を実施することにより、自身の研究を整理するとともに指摘された問題点については論点の明確化と適切な修正を行い、論文にまとめて提出する【資料7：入学から修了までのスケジュール】。</p>

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (15～16ページ)

新	旧
<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>3) 論文作成スケジュール ① 1年次の学生は研究指導教員の指導の下に自己の研究テーマを決め、研究計画について目安として年明けの1月頃に研究計画発表会(第1回)を行い、順次、倫理審査を受ける。 (学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行う。)</p> <p>② 2年次の5～7月に研究の進捗状況の確認のために中間発表会(第2回)を行う。年明けの1月中旬に論文を提出させ、2月中旬に最終発表会及び論文審査会、合否判定会議を行う。</p> <p>③ 論文審査及び成績評価は研究科委員会が行い、研究科長が決定する。</p>	<p>(6) 学位授与の考え方・論文指導体制等</p> <p>3) 論文作成スケジュール ① 1年次の学生は研究指導教員の指導の下に自己の研究テーマを決め、研究計画について12月までに倫理審査の承認を受けたのち、年明けの1月中旬に研究計画発表会(第1回)を行う。</p> <p>② 2年次の7月中旬に研究の実施状況の中間発表会(第2回)を行う。年明けの1月中旬に論文を提出させ、2月中旬に最終発表会及び論文審査会、合否判定会議を行う。</p> <p>③ 論文審査及び成績評価は研究科委員会が行い、研究科長が決定する。</p>

(是正事項) 医療科学研究科 看護学専攻 (M)

6. 「現職の看護職者である社会人に門戸を開放する教育機関を目指している」との記載がなされているが、授業の開始時間の設定が社会人を対象とするものとして適切であるか疑義があることから、社会人学生への支援体制や配慮の方策について具体的に示すこと。また、教員負担への配慮に関し、既設の学部教育及び管理運営業務等を含めた全体の負担量が不明であるため、専任教員ごとの負担量が分かる資料を示すこと。

(対応)

審査意見を踏まえ、平日の授業科目については18:00授業開始とし、6時限と7時限に授業を行うこととした。また学生の希望に応じ、授業開始時間等については柔軟に対応する予定である。(別紙4)

また、教員の授業負担については、別紙5のとおりであるが、大学院の担当業務が増えた分、特に教員の負担が大きい病院における臨地実習では、実習担当の特任教員を採用して、大学院担当教員の負担を減らす予定である。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (21ページ)

新	旧
10 大学院設置基準第2条の2による教育方法の実施 ・ ・ ・ ・ ・ (3) 授業の実施方法 すでに臨床現場に働いていてよりレベルアップを図りたいと考える社会人に対しては、学部教育時間との重複をしないように配慮し、授業時間は原則、月曜日から金曜日の18:00-19:30、19:40-21:10を設定し、土曜日は9:00-17:50までの時間帯に科目開講時間を合わせる【資料12：看護学専攻時間割】。また学生の希望に応じ、授業開始時間等については柔軟に対応する予定である。併せて夏季、冬季休業中における集中講義を柔軟に実施する。さらに・・・	10 大学院設置基準第2条の2による教育方法の実施 ・ ・ ・ ・ ・ (3) 授業の実施方法 すでに臨床現場に働いていてよりレベルアップを図りたいと考える社会人に対しては、学部教育時間との重複をしないように配慮し、授業時間は原則、月曜日から金曜日の16:20-17:50、18:00-19:30、19:40-21:10を設定し、土曜日は9:00-17:50までの時間帯に科目開講時間を合わせる【資料12：看護学専攻時間割】。また夏季、冬季休業中における集中講義を柔軟に実施する。さらに・・・

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (21ページ)

新	旧
10 大学院設置基準第2条の2による教育方法の実施 ・ ・ ・ ・ ・ (5) 教員の負担への配慮 本専攻の入学定員は3人であるが、一人の教員に研究指導学生が集中しないように適切に調整するとともに、学部の複数教員による授業科目や実習指導の軽減を図る等の措置により、大学院担当教員の負担が過重にならないように配慮する。特に、教員の負担が大きい病院における臨地実習では、実習担当の特任教員を採用して、大学院担当教員の負担を減らす予定である。	10 大学院設置基準第2条の2による教育方法の実施 ・ ・ ・ ・ ・ (5) 教員の負担への配慮 本専攻の入学定員は3人であるが、一人の教員に研究指導学生が集中しないように適切に調整するとともに、学部の複数教員による授業科目や実習指導の軽減を図る等の措置により、大学院担当教員の負担が過重にならないように配慮する。

7. 研究倫理審査体制について、学内者のみで構成されており、中立性の確保の観点から、適切に改めることが望まれる。

(対応)

研究倫理審査体制については、中立性の確保の観点から、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した者で構成することとし、「設置の趣旨を記載した書類」を次のとおり修正した。

(7) 研究の倫理審査体制

本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている【資料12：帝京科学大学研究倫理規準】。また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている【資料13：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。人を対象とする研究に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した次の者で構成されている。

- (1) 医学、医療の専門家等、自然科学の有識者 若干名
- (2) 倫理学、法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者 若干名
- (3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることのできる者 若干名

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (16～17ページ)

新	旧
<p>(7) 研究の倫理審査体制</p> <p>本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている。【資料9：帝京科学大学研究倫理規準】</p> <p>また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている。【資料10：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。</p> <p>人を対象とする研究に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは本学に所属しない者2名以上を含む学長が委嘱した次の者で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 医学、医療の専門家等、自然科学の有識者 若干名 (2) 倫理学、法律学の専門家等、人文・社会科学の有識者 若干名 (3) 研究対象者の観点も含めて一般の立場から意見を述べることのできる者 若干名 	<p>(7) 研究の倫理審査体制</p> <p>本学では、学術研究の信頼性と公正性を確保することを目的とし、研究を遂行する上で求められる研究者の行動・態度の倫理的規準を帝京科学大学研究倫理規準に定めている。【資料9：帝京科学大学研究倫理規準】</p> <p>また人を直接の対象とし、個人からその人の行動、環境、心身等に関する情報、データ等を収集・採取して行われる研究を遂行する上で求められる研究者の行動、態度の倫理的規準及び研究計画の審査に関する事項を「帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準」で定めている。【資料10：帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準】。</p> <p>帝京科学大学「人を対象とする研究」倫理規準第9条に規定する研究計画等の審査をするため、倫理審査委員会を設置し、委員会の構成メンバーは学長が委嘱した次の者で構成されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療科学部長 ・医学教育センター長 ・生命環境学部の教員2名 ・医療科学部の教員2名 ・「人を対象とする研究」に携わらない専任教員1名 ・総務課長

(改善事項) 医療科学研究科 看護学専攻 (M)

8. 教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、教育研究の継続性を踏まえ、今後の採用計画など教員組織編制の将来構想の明確化が望まれるので、対応方針について回答すること。

(対応)

審査意見を踏まえ、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する旨を「設置の趣旨等を記載した書類」に追記するとともに、定年退職者の採用計画を別紙6のとおり修正した。

5 教員組織の編成の考え方及び特色

.....
教員の年齢構成に関しては、完成年度末時で60歳代6名、50歳代7名で配置されており、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障がない構成になっている。また、本学規程（学校法人帝京科学大学教職員定年規程第2条）により【資料4：学校法人帝京科学大学教職員定年規程】、65歳を超えている教員の任用は第1回の卒業生を出す年までであり、完成年度末をもって退職する教員は4名である。本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である。また、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する予定である【資料5：定年退職者の採用計画（専任教員）】。

(新旧対照表) 設置の趣旨を記載した資料 (12ページ)

新	旧
<p>5 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>.....</p> <p>本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である。<u>また、教員の年齢構成が比較的高齢に偏っていることから、60歳未満の教員を原則として採用する予定である【資料5：定年退職者の採用計画（専任教員）】。</u></p>	<p>5 教員組織の編成の考え方及び特色</p> <p>.....</p> <p>本教員の退職後については、教育研究に支障のないように同等の実績を持つ教員を原則として公募により採用する予定である【資料5：定年退職者の採用計画（専任教員）】。</p>

シラバス（授業計画） 目次

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 看護学研究法特論 I | 21. 地域生活支援看護学総論 |
| 2. 看護学研究法特論 II | 22. 精神保健看護学特論 |
| 3. 看護倫理特論 | 23. 精神保健看護学演習 |
| 4. 看護理論特論 | 24. 地域看護学特論 |
| 5. 生活習慣病治療学特論 | 25. 地域看護学演習 |
| 6. 社会病理学特論 | 26. 母性看護学特論 |
| 7. 保健・医療統計学特論 | 27. 母性看護学演習 |
| 8. 看護教育学特論 | 28. 看護学特別研究 I |
| 9. 健康心理学特論 | 29. 看護学特別研究 II |
| 10. 生命倫理特論 | |
| 11. 看護システムマネジメント
特論 | |
| 12. フィジカルアセスメント特
論 | |
| 13. 多職種連携特論 | |
| 14. 療養生活支援看護学総論 | |
| 15. 療養生活ケア特論 | |
| 16. 療養生活ケア演習 | |
| 17. 緩和ケア特論 | |
| 18. 緩和ケア演習 | |
| 19. 小児看護学特論 | |
| 20. 小児看護学演習 | |

科目名	看護学研究法特論 I
英語名	Nursing Reserch I
学期	1年前期
単位数	2
【担当教員】	津田 茂子／新野 由子／糸井 和佳
【授業概要】	看護の歴史の変遷をふまえ、看護研究の有効性や重要性を認識し、看護研究の意義について探求する。さらに、看護を研究するうえでの特殊性、倫理性を理解し、妥当で信頼性の高い研究のプロセスと、そこで必要とされる思考過程を学ぶ。エビデンスに基づいた看護実践を行うための看護研究について理解を深めるために系統的に文献を検索し、論文をクリティークできる力を養い、研究計画の立案を目指す。
【到達目標】	看護学の発展に伴い、看護研究はさらに重要視されるようになり、看護研究の重要性、意義、看護を研究するうえでの特殊性・倫理性、妥当で信頼性の高い研究のプロセスについて理解を深める。系統的な文献検索と文献検討についてプレゼンテーションし、参加者全員でのディスカッションにより論文のクリティークを試みる。
【計画・内容】	<p>第1回：看護研究のための基礎(1)(看護研究の概観) 担当：津田 第2回：看護研究のための基礎(2)(看護研究の発展の歴史) 担当：津田 第3回：研究の概念(1)(看護研究の目的と重要性) 担当：津田 第4回：研究の概念(2)(看護研究のエビデンスの源とパラダイム) 担当：津田 第5回：研究における倫理的配慮(1)研究倫理とは、必要となった背景(利益相反含) 担当：新野 第6回：研究における倫理的配慮(2)研究倫理指針、研究倫理委員会等 担当：新野 第7回：研究プロセス(1)(研究の基本要素と重要な課題、研究プロセスの概観) 担当：津田 第8回：研究プロセス(2)(看護研究のためのデザイン) 担当：津田 第9回：論文の批判的吟味(クリティーク) 担当：糸井 第10回：統合的文献レビュー 担当：糸井 第11回：論文クリティーク(小児・母性看護分野) 担当：糸井 第12回：論文クリティーク(終末期看護分野) 担当：糸井 第13回：論文クリティーク(療養生活ケア分野) 担当：糸井 第14回：論文クリティーク(地域・精神保健分野) 担当：糸井 第15回：まとめ 担当：津田</p> <p>予習：事前に課題を提出する。 復習：授業内容から自己の課題について整理する。</p>
【教科書・参考書】	①D.P.Polit,C.T.Beck著、近藤潤子監訳：看護研究-原理と方法、第2版、2013年 ②バーンズ&グローブ著、黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳：看護研究入門 原著第7版、評価・統合エビデンスの生成、2015年 ③関連分野の学会誌など、その他適宜提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション、(30%)、レポート、(50%)、ディスカッションへの参加度(20%)、その他総合的に評価する
【備考】	

科目名	看護学研究法特論Ⅱ
英語名	Nursing Research LectureⅡ
学期	1年前期
単位数	2
【担当教員】	宮城 純子／大西 奈保子／清野 純子／糸井 和佳
【授業概要】	看護研究を計画するうえで、妥当な研究デザイン、研究枠組み、研究方法を選択できる能力を養うために、量的研究、質的研究、混合研究法の特徴、限界、方法論の具体について教授する。量的研究では、疫学研究、実験、準実験研究における対象の抽出方法、コントロールの設定、バイアスを避けるための研究デザイン方法とともに、データの記述、要約、関連性・因果関係の検討、予測・分類を目的とした一連の統計手法について解説する。質的研究では内容分析、Grounded Theory Approach、現象学的アプローチによるデータ収集方法、分析方法について概説する。混合研究法では、混合研究法を用いる根拠、デザインの選択、量的・質的データの収集方法、データの統合について概説する。
【到達目標】	1量的・質的・混合研究法のそれぞれの考え方と方法について理解できる 2自らの関心領域の文献を系統的に検索し、レビューできる 3自らの関心テーマに応じた研究計画書を立案できる
【計画・内容】	1)オリエンテーション、研究デザイン(糸井) 2)介入研究のサブストラクション(糸井) 3)量的研究の種類(伊藤(靖)) 4)量的研究の考え方、データの記述と関連性、因果関係の検討(伊藤(靖)) 5)尺度開発(伊藤(靖)) 6)疫学研究(臨床と疫学についての考え方)(宮城) 7)実験研究(実験研究の考え方)(宮城) 8)準実験研究(準実験研究とは何か)(宮城) 9)実験研究における対象の抽出方法、RCT、バイアスを避けるための研究デザイン(宮城) 10)質的研究のパラダイム、種類(大西) 11)Grounded Theory Approach(大西) 12)内容分析(大西) 13)現象学的アプローチ(大西) 14)混合研究法の概要、根拠、デザインの選択(糸井) 15)混合研究法における量的・質的データの収集と統合(糸井) 予習:初回の授業時に配布する資料を読んでくる 復習:授業中に提示した課題に取り組む
【教科書・参考書】	指定しない。参考書は適宜提示する。
【成績評価方法】	課題提出、課題内容により判断する。
【備考】	

科目名	看護倫理特論
英語名	Advanced lecture of Nursing ethics
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	伊藤 久美／大西 奈保子
【授業概要】	医療技術の発展・高度化は、それまでは助けられなかった命を助け、延命に貢献してきた。また生殖医療や臓器移植、遺伝子操作等の技術によって、人類に多大な恩恵をもたらした一方で、いのちや尊厳とは何かといった問題を我々につきつけた。さらにこうした治療の選択肢が増えた一方で、インフォームド・コンセントのあり方や患者の意思決定をどのように支えるべきなのかといったことが看護に求められるようになった。重い障がいや病気を抱える人々に対して、または終末期の治療継続や中止に伴う問題など医療の現場で遭遇するこれらの問題を取り上げ、議論を通じて倫理的な思考能力を養う。
【到達目標】	①看護実践上の倫理的課題を明確にし、課題解決に必要な知識を修得する。 ②臨床で遭遇する倫理的課題についてディスカッションができる。 ③倫理的課題が生ずる状況の中で、それぞれの立場の価値観や意見の違いを明確にし看護師がどのような倫理的調整を行う必要があるのかを理解する。
【計画・内容】	1)看護倫理とは 臨床で遭遇する倫理的問題(大西) 2)子どもの権利と自己決定権とインフォームド・コンセント(アセント)のあり方(伊藤) 3)親(保護者)が行なう意思決定の葛藤(伊藤) 4)重篤な障がいをもつ新生児の治療継続または差し控え(伊藤) 5)子どもの終末期ケアと延命治療の現状と問題①(小児医療における終末期医療の課題や生命維持治療の差し控えや中止)(伊藤) 6)子どもの終末期ケアと延命治療の現状と問題②(合理性を持たない延命治療と子どものQOLの維持)(伊藤) 7)子どもの臓器移植を含めた移植医療における問題(伊藤) 8)子どもの権利擁護に対する医療者の倫理的葛藤(伊藤) 9)人生の終末期に問題となる倫理①終末期鎮静(大西) 10)人生の終末期に問題となる倫理②安楽死と尊厳死(大西) 11)人生の終末期に問題となる倫理③医療の継続とDNAR(大西) 12)高齢者に対する倫理①認知症高齢者の権利と自己決定能力(大西) 13)高齢者に対する倫理②胃瘻の中止(大西) 14)看護実践の中で起こり得る倫理的問題についての議論(大西) 15)看護実践の中で起こり得る倫理的問題についての議論のまとめ(大西) 予習: 講義のテーマについて実践上の課題について文献、もしくは自己の経験に照らし合わせる。 復習: 講義内容をまとめ、実践上の課題を明確にし考察する。
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	看護理論特論
英語名	Nursing Theory
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	津田 茂子
【授業概要】	<p>主要な看護理論の歴史的変遷と、看護理論や概念の看護実践・教育・研究の発展における重要性について講義する。看護理論の意義や定義、概念とその構成要素と特徴、その役割について理解を深め、理論の実践的な価値を見出し、その評価を試みる。学生が興味ある看護理論を選択し、理論の概要の理解と理論分析を行う。看護実践や看護現象にどのように活用できるかをプレゼンテーションし、参加者全員でディスカッションすることにより看護理論の在り方と発展の方向性について理解を深める。適応モデルまたはセルフケアモデルを概観することにより、看護の実践・教育・研究への適用について探求する。</p>
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護理論の歴史的変遷について理解する。 2. 看護理論の構成要素について理解する。 3. 看護理論の分析と評価について理解する。 4. 看護実践・教育・研究における理論の重要性について理解する。 5. 主要な看護理論を自らの看護実践や教育、研究に適用し、看護の方向性について考察する。
【計画・内容】	<p>第1回：看護理論の歴史的変遷(看護学・看護科学の発展と看護理論の歴史) 第2回：看護理論の構成要素(看護理論の定義と分類、理論の構成要素) 第3回：看護理論の分析と評価①(看護のメタパラダイムと概念モデル、枠組み) 第4回：看護理論の分析と評価②(看護理論の分析、内容の評価) 第5回：看護実践・教育・研究における理論の重要性(理論構築への要素とアプローチ、活用と開発) 第6回：看護理論に関するクリティーク①(ケアリング、中範囲理論と看護実践への応用) 第7回：看護理論に関するクリティーク②(看護における人間関係構築と人間対人間の看護実践への応用) 第8回：看護理論に関するクリティーク③(人間のニーズと患者中心の看護) 第9回：看護理論に関するクリティーク④(行動システムモデルと看護実践への応用) 第10回：看護理論に関するクリティーク⑤(ヘルスプロモーションモデルと看護実践への応用) 第11回：看護理論に関するクリティーク⑥(役割移行過程理論の看護実践への応用) 第12回：適応モデルの実践・教育・研究への適用① 第13回：セルフケアモデルの実践・教育・研究への適用② 第14回：看護実践の明示化と看護学教育法の探求(パトリシア・ベナー) 第15回：まとめ</p> <p>予習：事前に課題を提出する。 復習：授業内容から自己の課題について整理する。</p>
【教科書・参考書】	<p><参考文献> ・A M-Tomey, 都留伸子監訳:看護理論家とその業績(第3版)、医学書院. ・筒井真優美編集:看護理論家と理論評価、医学書院.</p>
【成績評価方法】	<p>・プレゼンテーションの内容および発表内容(50%) ・レポート内容(50%)</p>
【備考】	

科目名	生活習慣病治療学特論
英語名	Special lecture: lifestyle diseases
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	眞先 敏弘
【授業概要】	生活習慣病とは、糖尿病・脂質異常症・高血圧・尿酸血症など生活習慣、すなわち食習慣、運動習慣、喫煙・飲酒などの嗜好品摂取習慣などが発症原因に深く関与していると考えられている疾患の総称であり、近年これらの疾患が増加し、社会的にも大きな問題になっている。これらの疾患は適切な生活習慣の形成ないし生活習慣の是正を実行することにより予防・治療が可能である。特に生活習慣病の予防は、世界的に医療費の削減のみならず、QOLの向上に大きく関与する。本講義ではこれらの現状を踏まえ、生活習慣病、特にその実践的な予防を念頭に置き、解説する。
【到達目標】	生活習慣病各疾患の分子生物学的病態生理を理解する。その上で各疾患の予防・治療法を理解する。特に幹細胞移植による再生治療について詳細に理解する。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1 分子生物学1(高血圧・虚血性心疾患):高血圧・虚血性心疾患の分子生物学を学ぶ 2 分子生物学的研究法2(悪性腫瘍):悪性腫瘍の分子生物学を学ぶ 3 分子生物学的研究法3(高脂血症):高脂血症の分子生物学を学ぶ 4 分子生物学的研究法4(糖尿病):糖尿病の分子生物学を学ぶ 5 分子生物学的研究法5(動脈硬化):動脈硬化の分子生物学を学ぶ 6 分子生物学的研究法6(肥満):肥満の分子生物学を学ぶ 7 分子生物学的研究法7(脳血管障害):脳血管障害の分子生物学を学ぶ 8 生活習慣病予防研究法1(運動):運動による生活習慣病予防研究法を学ぶ 9 生活習慣病予防研究法2(食事療法):食事療法による生活習慣病予防研究法を学ぶ 10 生活習慣病予防研究法3(精神衛生):精神衛生的生活習慣病予防研究法を学ぶ 11 生活習慣病予防研究法4(依存性生活習慣—喫煙・飲酒):依存性生活習慣は正による生活習慣病予防研究法を学ぶ 12 生活習慣病治療研究法1(循環器疾患):幹細胞移植を含めた循環器疾患の治療研究法を学ぶ 13 生活習慣病治療研究法2(悪性腫瘍):幹細胞移植を含めた悪性腫瘍の治療研究法を学ぶ 14 生活習慣病治療研究法3(代謝疾患):幹細胞移植を含めた代謝疾患の治療研究法を学ぶ 15 生活習慣病治療研究法4(脳血管障害):幹細胞移植を含めた脳血管障害の治療研究法を学ぶ <p>予習:適宜配布資料、関連する文献を予め読んでおくこと。 復習:授業で扱った内容に関して、配布資料、関連する文献を活用してまとめておくこと。</p>
【教科書・参考書】	使用する教材は、教師が用意する。筆記用具、ノート、教材や資料を保管するためのファイルを、各自準備すること。
【成績評価方法】	予習・復習を踏まえた授業内での討議(50%)、レポート(50%)などを総合して評価する。
【備考】	特になし

科目名	社会病理学特論																														
英語名	Social Pathology																														
学期	1・2年後期																														
単位数	2																														
【担当教員】	鈴木 幹夫																														
【授業概要】	社会病理とは、個人の精神病理のアナロジーとして作られた概念であり、社会構造レベルと、人間関係レベルとを往復し、多分に学際的意味合いを持ち合わせる。本講義では、様々な社会病理現象を理解することを通して、より深い人間洞察を目指す。特に、精神医学臨床の視点から、なるべく多くの具体例を示し、その病理のみならず、問題を解決するために、どのような介入を要するかも含め検討する。具体的には、薬物依存、児童虐待、カルト問題、自殺、ホロコーストなどである。																														
【到達目標】	様々な社会病理現象を理解することを通して、より深い人間洞察を目指します。そのためには、広い視野、深い内省力、複視眼的な物の見方、柔軟な思考を持つことを期待します。																														
【計画・内容】	<table border="0"> <tr> <td>1 依存の社会病理</td> <td>薬物の乱用と依存</td> </tr> <tr> <td>2 依存の社会病理</td> <td>アルコール問題</td> </tr> <tr> <td>3 依存の社会病理</td> <td>覚醒剤、その他の薬物</td> </tr> <tr> <td>4 関係性の社会病理</td> <td>家庭内暴力</td> </tr> <tr> <td>5 関係性の社会病理</td> <td>児童虐待</td> </tr> <tr> <td>6 同一性の社会病理</td> <td>摂食障害</td> </tr> <tr> <td>7 同一性の社会病理</td> <td>性同一性障害</td> </tr> <tr> <td>8 アニミズムの社会病理</td> <td>憑依・憑霊現象</td> </tr> <tr> <td>9 アニミズムの社会病理</td> <td>カルト問題</td> </tr> <tr> <td>10 その他の社会病理</td> <td>自殺問題</td> </tr> <tr> <td>11 その他の社会病理</td> <td>ホロコーストをめぐる問題</td> </tr> <tr> <td>12 その他の社会病理</td> <td>病跡学について</td> </tr> <tr> <td>13 司法精神医学</td> <td>責任能力、精神鑑定など</td> </tr> <tr> <td>14 司法精神医学</td> <td>関連法規など</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>予習：関連する文献を予め読んでおくこと。 復習：プリント、ノートを読み返すこと。</p>	1 依存の社会病理	薬物の乱用と依存	2 依存の社会病理	アルコール問題	3 依存の社会病理	覚醒剤、その他の薬物	4 関係性の社会病理	家庭内暴力	5 関係性の社会病理	児童虐待	6 同一性の社会病理	摂食障害	7 同一性の社会病理	性同一性障害	8 アニミズムの社会病理	憑依・憑霊現象	9 アニミズムの社会病理	カルト問題	10 その他の社会病理	自殺問題	11 その他の社会病理	ホロコーストをめぐる問題	12 その他の社会病理	病跡学について	13 司法精神医学	責任能力、精神鑑定など	14 司法精神医学	関連法規など	15 まとめ	
1 依存の社会病理	薬物の乱用と依存																														
2 依存の社会病理	アルコール問題																														
3 依存の社会病理	覚醒剤、その他の薬物																														
4 関係性の社会病理	家庭内暴力																														
5 関係性の社会病理	児童虐待																														
6 同一性の社会病理	摂食障害																														
7 同一性の社会病理	性同一性障害																														
8 アニミズムの社会病理	憑依・憑霊現象																														
9 アニミズムの社会病理	カルト問題																														
10 その他の社会病理	自殺問題																														
11 その他の社会病理	ホロコーストをめぐる問題																														
12 その他の社会病理	病跡学について																														
13 司法精神医学	責任能力、精神鑑定など																														
14 司法精神医学	関連法規など																														
15 まとめ																															
【教科書・参考書】	毎回プリントを配布します。参考書などは講義にて示します。																														
【成績評価方法】	レポート(100%)により評価する。																														
【備考】	大学での精神医学Ⅰ、精神医学Ⅱ、臨床心理学の知識と理解を前提とします。																														

科目名	保健・医療統計学特論
英語名	Advanced Lecture on Health Statistics
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	堀 芽久美
【授業概要】	<p>だれもが容易に保健・医療に関するさまざまな統計情報にアクセスできる現在、その中から信頼できる情報を選択し、収集する力は極めて重要である。また、正しい統計手法を使って情報を要約する能力、その結果を一般にわかりやすく説明し、対策にいかす能力は看護職にとって必要不可欠である。</p> <p>本講義では、適切な情報の収集および統計学的手法を用いた課題解決能力の獲得を目指す。また、統計学的に得られた結果をわかりやすく説明する能力を身に付けることを目標とする。</p>
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1) わが国の保健・医療に関する基幹統計調査について説明できる。 2) 保健・医療に関して信頼できる統計情報を適切に収集し、正しく解釈できる。 3) 統計学的手法を保健・医療に関する問題の解決のために活用できる。 4) 統計学的手法によって得られた結果について一般にわかりやすく説明できる。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) わが国の保健医療を取り巻く各種データの概要と動向 2) 統計学的手法の概説 3) 統計の基礎1(t検定、χ^2 二乗検定、マンホイットニー検定) 4) 統計の基礎2(RCTデザイン:非劣性試験/優越性試験/同等性試験、RCTにおける例数設計) 5) 統計の基礎3(一元配置分散分析、二元配置分散分析) 6) 多変量解析1(主成分分析、因子分析) 7) 多変量解析2(重回帰分析、ロジスティック回帰分析) 8) シミュレーション研究と費用対効果分析 9) システマティックレビューとメタアナリシス 10) 統計調査の表現、プレゼンテーションの工夫 11) グループ演習:保健医療に関するデータの収集および研究課題の特定 12) グループ演習:保健医療に関するデータの解析(SPSSを利用)(1) 13) グループ演習:保健医療に関するデータの解析(SPSSを利用)(2) 14) プレゼンテーション(1) 15) プレゼンテーション(2) <p>予習: 教科書の該当部分を読み、疑問点を整理する。 復習: 講義資料および教科書の該当部分の要点を整理する。予習段階での疑問に対して考察する。</p>
【教科書・参考書】	<p>【参考書】</p> <p>石村貞夫・石村光資郎:「SPSSによる統計処理の手順(第8版)」東京図書 厚生労働統計協会:「国民衛生の動向2017-2018」厚生労働統計協会(最新のものを準備することが望ましい)</p> <p>必要に応じて、授業で用いる資料は適宜配布する。</p>
【成績評価方法】	グループ学習・プレゼンテーション(50%)、レポート課題(50%)を合わせて総合的に判断して評価する。
【備考】	なし

科目名	看護教育学特論
英語名	Advanced Course in Nursing Education
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	小葉 祐子／志田 久美子／梅津 靖江／佐藤 亜月子
【授業概要】	看護学教育における教育制度、カリキュラム、教育方法、学習方法、評価、現行のカリキュラム内容を概観し、看護教育実践に必要な基礎的知識、技術、態度を修得することを目指す。さらに、文献レビューや事例学習を通して教育・学習理論を活用する能力や看護学教育の発展に向けたあり方について考察し、看護教育における実践能力を養う。また、キャリア発達の観点から、看護卒後教育、看護継続教育の現状と課題についても検討し、今後のあり方を考察する。
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 我国の看護教育の現状を分析・考察し、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の課題を明らかにできる。 2. 看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育のあり方についてディスカッションやプレゼンテーションを通して考察できる。 3. 看護基礎教育、看護卒後教育、及び看護継続教育への活用を説明できる。 4. 授業設計・授業分析・授業評価の展開方法を説明し、プレゼンテーションができる。 5. 看護教育学の発展に向けた教育のあり方について説明できる。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 看護教育を取り巻く現状と課題(小葉) 2) 看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の現状と課題①(看護教育制度とカリキュラム編成)(小葉) 3) 看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の現状と課題②(実習指導教育、技術教育)(小葉) 4) 看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の現状と課題③(看護継続教育、生涯教育)(小葉) 5) キャリア発達の観点から看護教育のあり方を考察する(小葉) 6) 授業展開・教授活動のための基礎知識(志田) 7) 講義・演習・実習における授業設計(志田) 8) 看護卒後教育、看護継続教育への活用(志田) 9) 授業設計の考え方(梅津) 10) 授業設計と教育評価(梅津) 11) 指導案作成の考え方(梅津) 12) 指導案作成の実際:グループワーク(梅津) 13) 指導案作成の実際:模擬授業と討議(梅津) 14) 看護基礎教育における教育実践、教育方法、教育評価に関する論文の精読と討議(佐藤) 15) 看護継続教育における教育実践、教育方法、教育評価に関する論文の精読と討議(佐藤) <p>予習: 適宜配布される資料や関連する文献を予め読んでおくこと。 復習: 授業で扱った内容に関して、関連する文献を活用してまとめておくこと。</p>
【教科書・参考書】	授業の進度に合わせて、適宜紹介する。授業資料など、必要時配布する。
【成績評価方法】	出席によるディスカッション(20%)及びプレゼンテーション(40%)、最終レポート(40%)など総合的に評価する。フィードバックは適宜行う。
【備考】	

科目名	健康心理学特論
英語名	Special seminar of health psychology
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	津田 彰
【授業概要】	超高齢社会における健康づくりは、単に平均寿命を伸ばすことではなく、自立した活動的で幸福な生活を営むことを可能にする健康寿命の延伸にある。健康心理学では、こころと身体の複雑な関係を社会という枠組みの中で全人的に理解することが求められている。そのため、より効率的な健康づくりの実践として、生物心理社会学的モデルに関連する高い理解力が重要視される。本講義では、よりよく生きるためのQOLやウェルビーイングの理念に加え、科学的根拠に基づいた健康支援の方略とその実践について教授する。
【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・健康心理学の代表的な理論について理解する ・科学的根拠に基づく健康づくりの考え方と支援法について理解する ・ストレスが健康に及ぼす多様なメカニズムについて理解する ・こころと身体の複雑な関係へのアプローチ方略として生物心理社会学的モデルを理解する
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 健康心理学の目標と方法、範囲 2) 健康の多様な考え方 3) ストレスと健康への生物心理社会学的モデル 4) 健康-病気の結果に及ぼす生物心理社会的メカニズム 5) ストレスマネジメントの理論と実際 6) 高齢者の心理と行動 7) 高齢者における健康づくり 8) アンチエイジングとポジティブ心理学 9) 自己認識のポジティブティとストレス評価の信念 10) 病は気からを科学する 11) 信じる力と癒し 12) 身体的健康とメンタルヘルス 13) アロスタシスと精神神経内分泌免疫系反応 14) 望ましい健康行動の変容 15) まとめ <p>予習: 関連資料を事前に確認 復習: 講義範囲の関連資料をまとめる</p>
【教科書・参考書】	特に定めない。講義内容をハンドアウトした資料を配布する。
【成績評価方法】	リアクションペーパー・発表50%、期末レポート50%にて総合的に評価する。
【備考】	

科目名	生命倫理特論
英語名	Advanced lecture on Bioethics
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	沖永 隆子
【授業概要】	本講義では、臨床現場での具体的な事例を取り上げながら、看護の土台となる「生命の倫理学」について教授する。医療現場や専門分野における倫理的な問題や葛藤について、関係者間での倫理的調整を行うための基礎となる倫理に関する諸理論、倫理原則・倫理綱領について扱う。具体的には、延命措置をめぐる差し控えや中止、脳死臓器移植の意思決定等の事例を通して（パワーポイントや視覚教材を使用）、生命倫理学の見地から対応策を模索・検討する。
【到達目標】	医療現場や専門分野での倫理的課題に直面するにあたり、倫理原則に則った推論を経て結論を出すことを目標とする。具体的には、ピーチャムらの生命倫理4原則やジョンセンらの臨床倫理4分割法によるディスカッション演習を行うことにより「患者の最善の利益」とは何かを検討する。
【計画・内容】	<p>1) 医療倫理学・看護倫理学の確立背景 医療倫理学・看護倫理学の概念史を概説できる。現状と課題について説明できる。</p> <p>2) 医療倫理学・看護倫理学の確立背景 看護研究と臨床研究の倫理について概説できる。現状と課題の理解について説明できる。</p> <p>3) 患者の権利と医師の善行・不加害原則 エホバの証人輸血拒否問題。善行の原則、IC、自己決定権、QOL、SOL等を説明できる。</p> <p>4) 患者の権利と自律尊重、治療選択権 「4分割法」で「ビデオ：花のプレゼント」（エホバの証人輸血拒否問題）の検討・評価できる。</p> <p>5) 患者の権利と自律尊重、治療拒否権 「4分割法」で「ビデオ：ダックスコワート」（重度の火傷の患者の治療拒否問題）の検討・評価できる。</p> <p>6) 終末期医療：緩和ケア、延命措置の問題について説明できる。世界の現状と課題について説明できる。</p> <p>7) 終末期医療：緩和ケア、延命措置の問題について説明できる。日本の現状と課題について説明できる。</p> <p>8) 終末期医療：尊厳死・安楽死問題について説明できる。世界の現状と課題について説明できる。</p> <p>9) 終末期医療：尊厳死・安楽死問題について説明できる。日本の現状と課題について説明できる。</p> <p>10) 事前医療指示（リビング・ウィル、アドバンス・ディレクティブ）、アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる。世界の現状と課題について説明できる。</p> <p>11) 事前医療指示（リビング・ウィル、アドバンス・ディレクティブ）、アドバンス・ケア・プランニングについて説明できる。日本の現状と課題について説明できる。</p> <p>12) エンドオブライフケア 「4分割法」で「ビデオ：老人の友」（高齢者の延命措置、尊厳死問題）を検討・評価できる。</p> <p>13) 脳死・臓器移植：日本と海外の現状比較、 脳死・臓器移植の問題点を整理し説明できる。</p> <p>14) 終末期医療に関するプレゼンテーション（発表）を通して様々な問題を説明できる。</p> <p>15) まとめ 倫理的ジレンマに直面するさいの倫理的判断、価値基準とは何か説明できる。</p> <p>予習：配布プリントを次回までに熟読。 復習：各回の教授項目のキーワードについて理解、説明できる。</p>
【教科書・参考書】	教科書・参考書は特に指定しない。教材プリントは教員が準備し配布する。参考書として、盛永審一郎・長島隆編『看護学生のための医療倫理』（丸善出版、2016・第6刷、¥2,600）、塚田敬義・前田和彦編『改訂版 生命倫理・医事法』（医療科学社、2018、¥3,300）などがある。
【成績評価方法】	授業内の発表（プレゼンテーション）や授業への取り組みなど平常点として50点、授業終了後のレポートを50点とし、総合評価する。
【備考】	

科目名	看護システムマネジメント特論
英語名	Special lecture of Nursing System Management
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	新野 由子／大釜 信政
【授業概要】	わが国の保健・医療システムの変遷を踏まえ、現行のシステムやサービス提供体制、そのサービスに対する国民の価値観の変化について概観しながら、効果的な看護システムマネジメント能力の修得を目指す。具体的には、看護を取り巻く制度や政策とその決定過程、看護政策をめぐる諸課題、組織の運営・管理に求められる理論や方法論、マンパワー開発などの検討を通し、看護政策や組織マネジメントに関する課題を整理し、質の高い看護を提供するための能力の獲得につなげる。
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 最近の医療政策をめぐる動向と課題について説明できる。 2. 医療政策の形成過程について説明できる。 3. 看護に関する政策的課題について説明できる。 4. 地域で療養者の生活を支援するための看護の役割について意見を述べるができる 5. 質の高い看護を提供するための組織運営について意見を述べるができる。 6. 看護政策に対する看護職者の関与の在り方について意見を述べるができる。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1)保健・医療の概況 日本の医療制度の全体像と医療政策形成過程 担当教員:新野 由子 2)医療政策に関する課題の理解① 社会保障・税一体改革、医療提供体制、地域包括ケア、療養生活に関する国民の価値観 担当教員:大釜 信政 3)医療政策に関する課題の理解② 地域医療構想、地域包括ケアシステムの構築、居宅医療の推進 担当教員:大釜 信政 4)医療供給制度の構造と改革の方向性 担当教員:新野 由子 5)看護政策の意義や制度 看護制度や保健・医療・看護政策の変遷から 担当教員:新野 由子 6)医療制度における看護政策の現状と課題 看護に影響を及ぼす法令や政策、特定行為研修制度、高度実践看護師の概念と役割 担当教員:大釜 信政 7)助産師の歴史と今後の発展にむけた課題その1 担当教員:新野 由子 8)助産師の歴史と今後の発展にむけた課題その2 担当教員:新野 由子 9)看護・医療組織論① 看護・医療組織の特性と機能—タスクシェアリングに着眼して— 担当教員:大釜 信政 10)看護・医療組織論② 地域包括ケアシステムで高度実践看護師を活用する社会的意義 担当教員:大釜 信政 11)費用対効果の高い看護を提供するための制度変革とその理論 高度実践看護師コンピテンシー開発や関連法規改正の必要性、多職種連携の必要性、診療報酬の獲得 担当教員:大釜 信政 12)看護システムマネジメント演習① 地域包括ケアの拡充を阻害する看護にまつわる要因について検討する 担当教員:大釜 信政 13)看護システムマネジメント演習② 地域包括ケアの拡充に向けて看護職に求められるコンピテンシーについて検討する 担当教員:大釜 信政 14)プレゼンテーション これまでの討議を通して、看護システムマネジメントに関する課題と解決策の方向性について発表する。 担当教員:大釜 信政 15)まとめ 看護システムマネジメントに対する看護職者の関与の在り方について考える 担当教員:新野 由子 <p>予習:指定した資料について次回までに熟読する。 復習:毎回の授業における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。</p>
【教科書・参考書】	<p>【教科書】 特に指定しない。適宜、授業資料は配布する。</p> <p>【参考書】 ・岩淵豊:「日本の医療政策—成り立ちと仕組みを学ぶ」中央法規 ・厚生労働省編:「厚生労働白書(平成29年版)—社会保障と経済成長」日経印刷 ・尾形裕也:「日本の医療政策と地域医療システム第3版—医療制度の基礎知識と最新動向」日本医療企画 ・島崎謙治:「日本の医療 制度と政策」東京大学出版会 必要に応じて、授業で用いる資料は適宜配布する。また、上記以外のテキストについても、適宜、授業の中で紹介する。</p>
【成績評価方法】	予習・復習を踏まえた授業内での討議ならびに演習課題報告(50%)、レポート(50%)などを総合して評価する。
【備考】	なし

科目名	フィジカルアセスメント特論
英語名	Special lecture of Physical Assessment
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	大釜 信政
【授業概要】	日本では、社会保障にまつわる緊迫した財政状況から、在院日数の短縮に伴って居宅医療が拡大してきている。そのような背景のもとで、看護師には、療養生活におけるケアも踏まえた自律したケア実践力が求められている。そして、その実践に向けて、高度なアセスメント力も必要になる。この授業では、解剖・生理学、病態学、臨床薬理学、臨床検査の内容も踏まえ、呼吸器、循環器、消化器・代謝系、脳神経・運動系を中心に、的確な身体査定のための技能を修得する。そして、あくまで看護学の観点に基づいて、その査定から導き出される療養生活を支えるためのケアの実際や他職種との連携を必要とする場面について考える。
【到達目標】	1)フィジカル・イグザミネーションや検査所見等から、正常性・日常性から逸脱する身体状態について判断できる。 2)正常性・日常性からの逸脱する身体状態について、その原因・誘因を科学的根拠に基づきながら説明できる。 3)的確なフィジカル・アセスメントに基づいて、緊急度・重症度も考慮しながら、必要なケアについて説明できる。 4)他職種との連携を必要とする療養者の状況について説明できる。
【計画・内容】	1)フィジカル・アセスメント総論 症状や問診、観察からの基礎的アセスメント 2)基本的フィジカル・イグザミネーションとバイタルサインズからのアセスメント 3)呼吸器系フィジカル・アセスメント① 「換気」状態を評価するための知識・技術 4)呼吸器系フィジカル・アセスメント② 呼吸の正常・異常とそれを裏付ける症状や検査所見、ケアの実際 5)循環器系フィジカル・アセスメント① 血液が正常に循環されているかと心臓の動きを評価するための知識・技術 6)循環器系フィジカル・アセスメント② 循環の正常・異常とそれを裏付ける症状や検査所見、ケアの実際 7)循環器系フィジカル・アセスメント③ 循環器系に作用する代表的な薬剤について(降圧薬、狭心症治療薬、抗不整脈薬、心不全治療薬、抗血栓薬) 8)消化器・代謝系フィジカル・アセスメント① 栄養の取り込みから排泄までの過程を評価するための知識・技術 9)消化器・代謝系フィジカル・アセスメント② 消化器・代謝の正常・異常とそれを裏付ける症状や検査所見、ケアの実際 10)消化器・代謝系フィジカル・アセスメント③ 消化器・代謝系に作用する代表的な薬剤について(インスリン、経口血糖降下薬、脂質異常症治療薬、下剤) 11)脳神経・運動系フィジカル・アセスメント① 日常生活上の身体機能や生命維持機能を評価するための知識・技術 12)脳神経・運動系フィジカル・アセスメント② 脳神経・運動系の正常・異常とそれを裏付ける症状や検査所見、ケアの実際 13)フィジカル・アセスメント演習① 呼吸器系と循環器系のフィジカル・アセスメントを中心に 14)フィジカル・アセスメント演習② 消化器系・代謝系と脳神経・運動系のフィジカルアセスメントを中心に 15)フィジカル・アセスメント演習③ フィジカル・アセスメントをケア実践や多職種との連携に活用する 予習:指定したテキストや適宜配布される資料について次回までに熟読する。 復習:毎回の授業・演習における議論を通じて、追加・訂正された内容がある場合にはそれを整理する。
【教科書・参考書】	【教科書】 ・医療情報科学研究所編:「フィジカルアセスメントがみえる第1版」メディックメディア ・浦部晶夫・他編:「今日の治療薬2018 解説と便覧」南江堂(最新のものを準備することが望ましい) 【参考書】 ・山内豊明著:「フィジカルアセスメントガイドブック-目と手と耳でここまでわかる第2版」医学書院 ・佐藤憲明編:「救急対応力10倍アップ 臨床実践 フィジカルアセスメント」南江堂 必要に応じて、授業で用いる資料は適宜配布する。
【成績評価方法】	予習・復習を踏まえた授業内での討議ならびに演習課題報告(50%)、レポート(50%)などを総合して評価する。
【備考】	本講義の中でも系統的フィジカル・イグザミネーションについて復習するが、初回授業までに基本的技術はマスターしておくことが望ましい。

科目名	多職種連携特論
英語名	Interprofessional Education
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	吉岡 幸子／志田 久美子／山田 健／宮下 智／坂野 憲司
【授業概要】	多職種連携が必要となってきた歴史的背景、国内外での動向、多職種連携の概念、協働で行うことの意義さらに対人関係、組織や制度上の課題などから連携の本質を教授する。加えて地域保健医療福祉等の場が異なる多職種・多機関連携の実践事例から、連携・協働の特徴を把握するとともに、「個人」「チーム」「組織」のそれぞれのもつ課題に対応できる実践力向上を目指す。さらに、専門職連携教育(IPE)、専門職連携協働(IPW)の定義と意義、役割について概説する。
【到達目標】	1. 多職種連携の概念・意義について、理解できる。 2. 多職種連携の実際から、その必要性や課題について理解できる。 3. 専門職連携教育の必要性について、理解できる。
【計画・内容】	1)多職種連携に関する歴史的背景:志田 久美子 2)多職種連携の概念①(日本動向):志田 久美子 3)多職種連携の概念②(海外の動向):志田 久美子 4)多職種連携の意義:志田 久美子 5)看護を取り巻く組織上の課題①(病院・施設内の多職種連携の実際と課題):吉岡 幸子 6)看護を取り巻く組織上の課題②(地域における多職種連携の実際と課題):吉岡 幸子 7)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(看護職の立場から)① 訪問看護ステーション事例を通して多職種連携を考える。:吉岡 幸子 8)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(看護職の立場から)② 保健師の関わる事例を通して、多職種連携を考える。:吉岡 幸子 9)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(理学療法士の立場から)① 病院内における理学療法士との連携を考える。宮下 智 10)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(:理学療法士の立場から)② 地域における理学療法士との連携を考える。:宮下 智 11)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(精神保健福祉士の立場から)① 精神科病院における精神保健福祉士との連携を考える。:坂野 憲司 12)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(精神保健福祉士の立場から)② 保健所や精神保健福祉センター精神保健福祉士との連携を考える。:坂野 憲司 13)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(社会福祉士の立場から)① 地域包括支援センター社会福祉士との連携を考える。:山田 健 14)多機関連携の実際から、看護職としての連携の本質を探求する。(社会福祉士の立場から)② 生活保護事例に関わる社会福祉士との連携を考える。:山田 健 15)IPE(専門職連携教育)とIPW(専門職連携協働)のあり方を探求する。:吉岡 幸子 予習:関連資料をあらかじめ読んでおくこと 復習:内容について再度、要点をまとめておくこと
【教科書・参考書】	テキストは指定せず、講義開始前に参考文献などを適宜提示する
【成績評価方法】	予習とプレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	療養生活支援看護学総論
英語名	Introduction to Nursing care support life
学期	1年前期
単位数	2
【担当教員】	津田 茂子／伊藤 久美／大西 奈保子／糸井 和佳
【授業概要】	超高齢社会、少子・多死社会において、病状の急性増悪・回復・安定、さらには安寧な死にむかう健康状態であっても、それぞれの療養生活の場で質の高いケアが受けられるために看護実践上の課題を見出し解決するために必要な知識を幅広く得ることが目的である。療養生活をおくる人々を取り巻く医療情勢や疾病構造、健康課題、または療養生活をおくる人々を身体的・心理的に理解しケアを実践するのに必要な病態や理論について概説しディスカッションやプレゼンテーションを通して、療養の場の管理運営や環境調整、及び療養生活をおくる人々への支援に関する理解を深める。
【到達目標】	1. 療養生活をおくる人々がおかれている現状を理解できる。 2. エビデンスに基づいた療養生活支援を考察できる。
【計画・内容】	1) 子どもの生活と健康における歴史的な背景①(小児看護の歴史と意義)(津田) 2) 子どもの生活と健康における歴史的な背景②(子どもの権利と小児看護、目的)(津田) 3) 療養生活をおくる子どもへの看護①(健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響とその看護)(伊藤(久)) 4) 療養生活をおくる子どもへの看護②(様々な健康の段階:急性期、慢性期、終末期や様々な状況:障がい、災害、痛みなどにある子どもと家族への看護)(伊藤(久)) 5) 療養生活をおくる子どもへの看護③(在宅療養を必要とする子どもと家族への看護)(伊藤(久)) 6) 高齢者ケアの現状と支援①(認知症ケアと家族支援)(糸井) 7) 高齢者ケアの現状と支援②(在宅ケア、訪問看護)(糸井) 8) 高齢者ケアの現状と支援③(治療に関わる意思決定支援)(糸井) 9) 高齢者ケアの現状と支援④(介護予防)(糸井) 10) 高齢者ケアの現状と支援⑤(回想法・ライフレビュー・世代間交流)(糸井) 11) 多死社会におけるターミナルケアの現実と課題(大西) 12) がん患者と非がん患者の終末期の違い(大西) 13) 緩和ケアの概念と実際(大西) 14) 終末期に問題となる倫理的課題(大西) 15) 高齢者のEnd-of-life-careの実際と課題(大西) 予習: 指示された文献を熟読して参加する。 復習: 予習・授業を通しての整理をする。
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	療養生活ケア特論
英語名	Recuperation nursing care Lecture
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	糸井 和佳
【授業概要】	高齢者が看護を受ける場合は、病院、施設、在宅、地域と広がりを見せており、また高齢者の健康レベルも健康増進から、慢性疾患を有しながらの療養生活、急性期医療が必要となるレベルと様々である。高齢者とその家族の健康生活をアセスメントし、療養生活におけるQOL向上のための専門的な看護ケアの立案、実践、評価するための理論と方法を学ぶ。特に在宅におけるケアの方法論を探求し、高齢者の尊厳と自律を尊重した新たなケアの創出やサポート体制の構築を学修する。
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者ケアに関する制度、施策の変遷を理解する。 2 老年期におけるの身体・精神・社会的機能の変化と特徴を理解する。 3 高齢者の総合的アセスメントを理解する。 4 認知症ケアの動向とパーソンセンタードケアを理解する。 5 高齢者と家族を支える在宅ケアとチームアプローチについて理解する。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1)オリエンテーション、高齢者保健医療福祉制度の変遷 2)加齢による身体・精神・社会機能の変化、高齢者の薬物動態 3)当事者としての老いの理解、高齢者ケアに関する看護理論 4)CGA(Comprehensive Geriatric Assessment)高齢者総合アセスメントとフレイル 5)入院加療が高齢者に与える影響とせん妄等予防ケア 6)認知症の診断、治療と看護、BPSD 7)認知症と家族の看護、パーソンセンタードケア 8)介護保険施設における高齢者ケアと倫理的問題 9)在宅療養を支えるケアシステムとケアマネジメント 10)在宅療養における高齢者と家族の包括的アセスメント 11)在宅療養における呼吸管理と意思決定支援 12)訪問看護の法的責任とリスクマネジメント 13)在宅療養におけるend of life careと多職種・多機関連携 14)世代間交流と高齢者看護1 15)世代間交流と高齢者看護2 <p>・予習：初回の授業時に配布する資料を読んでくる ・復習：授業中に提示した課題に取り組む</p>
【教科書・参考書】	指定しない。参考書は適宜提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容40%、ディスカッションへの貢献度30%、レポート30%により評価する。
【備考】	

科目名	療養生活ケア演習
英語名	Seminer of Recuperation Nursing Care
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	糸井 和佳
【授業概要】	療養生活ケア特論で得た知識をもとに、療養生活ケアに関する研究を自律して行うことができるようになるために、文献の収集と批判的検討を行う。また高齢者ケアが行われている場(病院、施設、在宅、地域)に赴き、ケアを必要とする高齢者のアセスメントをもとに、療養生活におけるQOL向上を目指した看護計画立案を行い、援助方法を探求する。
【到達目標】	1自らの研究テーマに基づき、療養生活ケアにおいて関心を持ったトピックスを選び、文献検討ができる。 2関心をもったトピックスについて、フィールド(病院、施設、在宅、地域)に出向き、アセスメント、問題の所在、看護ケアの方向性について考察する 3立案した看護計画について現場の指導者からフィードバックを受け、評価できる
【計画・内容】	1)オリエンテーション、各学生の研究テーマの明確化 2)認知症ケアの研究動向 3)在宅ケアの研究動向 4)高齢者のアセスメント技法 5)認知症高齢者と家族への意思決定支援の研究動向 6)研究テーマに応じた文献レビュー、演習計画立案 7)フィールドワーク(高齢者施設) 8)フィールドワーク(在宅・地域) 9)フィールドワーク(病院) 10)演習フィールドの決定とフィールド実習依頼 11)フィールドワーク(チームカンファレンス参加) 12)フィールドワーク(看護介入モデルの立案) 13)フィールドワーク(看護介入の看護計画の一部実施、現場の指導者からのフィードバック) 14)看護介入モデルの評価 15)演習成果のまとめ・発表 予習:初回の授業時に配布する資料を読んでくる 復習:授業中に提示した課題に取り組む
【教科書・参考書】	指定しない。参考書は適宜提示する。
【成績評価方法】	文献検討レポート40%、演習計画、演習記録、レポート60%により評価する。
【備考】	

科目名	緩和ケア特論
英語名	Advanced lecture of Palliative Care
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	大西 奈保子
【授業概要】	緩和ケアで必要とされる考え方、緩和ケアの発展の歴史、緩和ケアに関わる政策の概要について理解を深め、緩和ケアを受けるがん患者が体験している苦痛について、身体的苦痛、精神的苦痛、社会的苦痛、スピリチュアルペインとして全人的に捉え、QOLの向上を目指した看護介入方法について学修する。また、多死社会を見据えてがん患者だけではなく、高齢者の死についても理解を深め、その人が希望する場所で最期を迎えられるように病院や緩和ケア病棟だけではなく在宅ホスピスや高齢者施設での看取りや、大切な人を看取った遺族へのグリーフケアについても学修する。
【到達目標】	1. 緩和ケアの基本的概念・知識について理解できる。 2. 死をめぐる現代医療の問題を看護実践上の課題から考察できる。 3. 緩和ケア・グリーフケアなどの理論から看護実践の方法について理解できる。
【計画・内容】	1) 緩和ケアとは何か。歴史的背景 2) 死を取り巻く社会・倫理的問題：終末期鎮静と安楽死問題 3) 死を取り巻く社会・倫理的問題：医療の差し控え 4) Truth Tellingと意思決定支援：死の受容に至るプロセス 5) Truth Tellingと意思決定支援：コミュニケーションの重要性 6) 全人的苦痛 7) 緩和ケアの考え方・方法 8) ターミナルケアにかかわる医療者の問題：バーンアウト 9) ターミナルケアにかかわる医療者の問題：STSD(二次的外傷性ストレス) 10) 死の看取り 11) 在宅ホスピス 12) グリーフケアの考え方・理論 13) グリーフケアの方法 14) デス・エデュケーション 15) 緩和ケアにおける実践的課題と展望 予習：講義に関連する文献を調べてくる。 復習：自己の経験に照らし合わせて言語化する。
【教科書・参考書】	参考書 B.ハドノール スタム(編集)：二次的外傷性ストレス—臨床家、研究者、教育者のためのセルフケアの問題、誠信書房、2003。 J.ウィリアム ウォーデン(著)：悲嘆カウンセリング：臨床実践ハンドブック、誠信書房、2011。 森田達也、白土明美：死亡直前と看取りのエビデンス、医学書院、2015。 恒藤暁：最新緩和医療学、最新医学社、1999。 その他、随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	緩和ケア演習
英語名	Advanced practice of Palliative Care
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	大西 奈保子
【授業概要】	緩和ケア特論で得た知識をもとに、緩和ケアにおける倫理的諸問題、患者やその家族の抱える全人的苦痛に対する緩和ケアの知識・技術、患者やその家族をケアする提供者の心理的負担などの問題について、国内外の文献を討議材料として考察する。また、がん患者と非がん患者の予後やそれに伴う諸問題、看取る場の違い、看取り後の遺族の悲嘆の問題などについても実態を把握し、緩和ケアの広がりについて現状と課題を検討する。それらの中から自己の研究課題を明確にし、それに沿ったテーマの研究動向について国内外の文献レビューを行う。プレゼンテーションおよびディスカッションを通じて研究課題の意義を明確にし、研究方法や分析方法について吟味する。
【到達目標】	1. 緩和ケアにおける国内外の研究の動向を把握する 2. 自己の研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にする。 3. 研究課題に基づき、研究計画の作成ができる。
【計画・内容】	1) ガイダンス: 緩和ケア・死生学研究の広がり 2) 緩和ケア領域に関連した国内外の研究の動向: 終末期の倫理的な問題 3) 緩和ケア領域に関連した国内外の研究の動向: 患者・家族へのケア 4) 緩和ケア領域に関連した国内外の研究の動向: ケア提供者の心理的負担・バーンアウト 5) 緩和ケア領域に関連した国内外の研究の動向: グリーフケア 6) 研究における倫理的配慮の検討 7) 緩和ケア関連に関する研究方法の整理 8) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク: 終末期の倫理的問題に関する文献 9) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク: 患者・家族の心理に関する文献 10) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク: 患者・家族に対する緩和ケアの文献 11) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク: ケア提供者に関する文献 12) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク: グリーフに関する文献 13) 研究テーマにそった文献内容の整理 14) 研究テーマにそった文献内容の整理 15) まとめ・発表 予習: 関心ある領域での文献検索・クリティーク 復習: 抄読論文の整理
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	小児看護学特論
英語名	Advanced Pediatric Nursing
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	津田 茂子
【授業概要】	小児看護学は15歳までのいわゆる小児期にある子どもと家族を対象とするが、小児期から生じた問題は青年期、成人期などライフサイクルにおいて影響を及ぼしキャリアオーバーな人たちも対象とする。主に小児期に生じた原因・誘因によって発達や生活に困難さをもちながら生活している人々の生活の質を向上させるための方略を身体的・心理的、社会的な観点から理論的に考察を深める。さらに、子どもたちのさまざまな発達の状況と健康状態からより発達を促進するための諸理論を学び、より専門的な小児看護の実践について探求する。
【到達目標】	子どもと家族を取り巻く社会情勢や小児医療の変遷、諸問題から、小児のおかれている状況を統合的にアセスメントすることができる。子どもと家族を取り巻く小児期から健康上の諸問題について身体的、心理的、社会的にアセスメントし介入の方向性を探求する。さらに、子どもの権利を保証できる看護者としての知識、技術、態度について探求する。対象とする子どもと家族の発達をより促進し、より質の高い生活を提供するための支援方法について理論的に考察し、ケアを構築できる。
【計画・内容】	<p>第1回：小児を取り巻く社会①(統計学的な視点からみた現代社会と子どものおかれている現状)</p> <p>第2回：小児を取り巻く社会②(子どもを取り巻く社会と法律、施策について)</p> <p>第3回：小児医療の現状と課題①(子どもの健康を維持促進するための現代の小児医療と看護)</p> <p>第4回：小児医療の現状と課題②(健康障害を持ちながら地域で生活する子どもを支援する小児医療と看護)</p> <p>第5回：倫理的問題①(様々な状況にある子どもの意思決定を支える看護)</p> <p>第6回：倫理的問題②(子どもの成長・発達を促進するための看護支援と小児看護の専門性)</p> <p>第7回：発達支援を必要とする子どもと家族のアセスメントと介入①(発達障害をもつ子どもと家族の現状と看護)</p> <p>第8回：発達支援を必要とする子どもと家族のアセスメントと介入②(育児支援を必要とする家族の現状と看護)</p> <p>第9回：急性期にある小児と家族のアセスメントと介入①(急性症状を呈する子どもと家族の危機と看護)</p> <p>第10回：急性期にある小児と家族のアセスメントと介入②(急な適応を強いられる子どもと家族の看護)</p> <p>第11回：慢性状態にある小児と家族のアセスメントと介入①(子どもと家族のセルフケアを促進するための看護)</p> <p>第12回：慢性状態にある小児と家族のアセスメントと介入②(慢性的な自己管理と主体性を育むレジリエンス)</p> <p>第13回：周産期から新生児期に問題をもつ小児と家族のアセスメントと介入①(出産から育児への役割移行促進)</p> <p>第14回：周産期から新生児期に問題をもつ小児と家族のアセスメントと介入②(親業の相互依存的システム作り)</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>予習：事前に課題を提出する。 復習：授業内容から自己の課題について整理する。</p>
【教科書・参考書】	<p>①Pediatric Nursing:Caring for Children and Their Families</p> <p>② Nursing Care of Infants and Children</p> <p>③小児看護学会誌</p> <p>④小児保健学会誌</p> <p>⑤看護理論集</p> <p>⑥その他、適宜指示する</p>
【成績評価方法】	プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、ディスカッションへの参加度(20%) その他、総合的に評価する
【備考】	

科目名	小児看護学演習
英語名	Advanced Pediatric Nursing Practical
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	津田 茂子
【授業概要】	小児看護学に関連した研究の現況と動向を知り、小児看護学研究の考察を深めるために、文献クリティークを行う。小児看護学研究に関連した文献から、研究の背景や内容の理解を深めることで、自己の研究課題を明確にし、研究計画を組み立て、研究計画書の作成につなげる。
【到達目標】	関連文献を探索し、内容を読み込むことで、研究の視点を深め、研究課題を絞り込む。プレゼンテーションやディスカッションを行うことで自己の研究課題を明確にする。
【計画・内容】	<p>第1回: EBNと小児看護学 第2回: 看護研究論文の読み方 第3回: 小児と家族を対象とした研究倫理について①(小児の臨床における看護研究の倫理) 第4回: 小児と家族を対象とした研究倫理について②(子どもの研究規制と倫理的配慮) 第5回: 小児と家族を対象とした看護研究文献レビュー①(文献検討と研究の意義) 第6回: 小児と家族を対象とした看護研究文献レビュー②(文献検討と研究の目的) 第7回: 小児と家族を対象とした研究プロセス①(研究計画書と実施体制) 第8回: 小児と家族を対象とした研究プロセス②(研究の方法および期間など) 第9回: 小児と家族を対象とした質的研究①(質的データを用いた研究のステップ) 第10回: 小児と家族を対象とした質的研究②(質的データの集め方と分析) 第11回: 小児と家族を対象とした量的研究①(質問紙調査をどのようにすすめるか) 第12回: 小児と家族を対象とした量的研究②(データの整理と分析をどうすすめるか) 第13回: 小児と家族を対象とした混合研究①(混合研究法の手続き) 第14回: 小児と家族を対象とした混合研究②(混合研究法のデザインと研究例) 第15回: まとめ</p> <p>予習: 事前に課題を提出する。 復習: 授業内容から自己の課題について整理する。</p>
【教科書・参考書】	看護研究関連の書籍や雑誌を適宜指定する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション(30%)、レポート(50%)、ディスカッションへの参加度(20%)、総合的に評価する。
【備考】	

科目名	地域生活支援看護学総論
英語名	Introduction Community life support nursing
学期	1年前期
単位数	2
【担当教員】	吉岡 幸子／新野 由子／宮城 純子／清野純子／大釜 信政
【授業概要】	<p>本講義では、ヘルス・プロモーション活動の概念理解を深化し、地域包括ケアシステム構築の必要性やその具体的な看護実践上の課題を見いだすための知識を身につけることを目的としている。人々の健康問題を解決してゆくための行動変容に必要な理論を考える一方で、個人的問題の側面だけではなく、社会的な問題として捉え概説する。主に家族やコミュニティーの希薄さからくる妊産婦の孤立、社会病理により派生した触法精神障害者、虐待、セルフ・ネグレクト、孤立死など、多様で深刻な問題をもとに、グループディスカッションを通じて、様々な健康レベルにある個人・家族のセルフケア能力を向上する支援、生活を支える環境づくり、及び多職種多機関連携など、看護の果たす可能性について探求していく。</p> <p>以上のように、医療の高度化・複雑化に伴い、看護学において求められている広い視野から他覚的に事象を捉える学識及び多様かつ柔軟的に活躍し得る高度の研究能力を修得するため、地域生活支援分野に関連する教員がオムニバス形式で、各人の専門とする分野に基づき教授する。</p>
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルス・プロモーション活動の概念の深化ができる。 2. ライフステージ期にある多様な健康課題に対する最新の支援方法や課題が理解できる。 3. 生活を支える社会資源調整や多機関多職種とのネットワークの必要性について、理解できる。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 日本の保健医療政策の発展過程:大釜 信政 2) 日本の社会構造の変化と医療の役割:大釜 信政 3) 地域ケアシステム構築に向けて看護に期待される役割:大釜 信政 4) 妊娠・子育て期を過ごすための方策①健康管理 新野 由子 5) 妊娠・子育て期を過ごすための方策②親になる事と地域のつながり 新野 由子 6) 精神医療の歴史と展望:宮城 純子 7) 精神障害者に対する地域支援と家族支援:宮城 純子 8) 精神看護に求められる知識と技術:宮城 純子 9) 行動変容に必要な要素①(ストレス緩和):清野 純子 10) 行動変容に必要な要素②(レジリエンス、セルフエフィカシー):清野 純子 11) ヘルスプロモーション活動の歴史的変遷と意義:吉岡 幸子 12) 地域の文化や特性に合わせた健康課題の抽出:吉岡 幸子 13) 高齢者虐待、セルフ・ネグレクト(自己放任)、孤立死の実態とその支援方法と予防活動:吉岡 幸子 14) 飲酒による健康被害の実態とその支援方法と家族支援:吉岡 幸子 15) 環境づくり、多職種多機関連携、ネットワークなど、看護の果たす可能性に対する議論とまとめ:吉岡 幸子 <p>予習:事前に課題を提出する。 復習:授業内容から自己の課題について整理する。</p>
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	精神保健看護学特論
英語名	Advanced Mental Health Nursing
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	宮城 純子
【授業概要】	近年、アルコールや薬物依存症者の増加、DV、自殺などの社会病理がみられ早急な対応が求められている。さらに精神疾患をもつ人に対する看護では看護職者に対して、地域移行や医療観察法に関連する触法精神障害者の看護ケア等について幅広い知識と応用力が求められている。この講義では、精神保健医療福祉の歴史の変遷を踏まえた精神保健福祉制度について学び、今日の精神保健に関連した問題や課題について概説し、今後の展望や医療職の役割について探求する。
【到達目標】	1. 精神保健医療福祉の歴史の変遷を踏まえた、精神保健福祉医療制度を理解することができる。 2. 精神的困難を抱えた人とその家族を支えるための法律や社会資源等の活用について理解を深めることができる。 3. 精神的困難を抱える個人・家族・集団に対して効果的な支援を考察することができる。
【計画・内容】	1. オリエンテーション 社会とメンタルヘルス 2. ライフサイクルと精神保健（ライフサイクルと精神の健康） 3. 精神保健医療福祉に関する歴史の変遷と現状①（施策や課題に関する検討） 4. 精神保健医療福祉に関する歴史の変遷と現状②（当事者としての立場から今後の方策に関する検討） 5. 精神科領域における治療的アプローチと看護 6. 精神科領域における薬物療法と看護への活用 7. 精神症状の査定と精神症状の捉え方 8. 精神保健における取組み①（精神障害者リハビリテーションとリカバリー、ストレングスモデルとACT） 9. 精神保健における取組み②（DV・自殺・虐待の現状と対策） 10. 精神保健における取組み③（アルコール・薬物依存の動向、治療と回復） 11. 触法精神障害者の処遇（法制度と看護上の課題、家族支援） 12. 地域移行支援・地域生活支援（アウトリーチ・家族支援） 13. 地域移行支援・地域生活支援（就労支援・危機介入） 14. 精神保健福祉医療に関わる専門職とチーム医療 15. 精神保健福祉医療におけるリエゾン精神看護看護師の役割 予習：各回必ず事前に関連する記事や書物を読み疑問や自分の考えを持って講義に臨むこと。 復習：各回終了後は必ず要点を整理しておくこと、
【教科書・参考書】	テキストは指定しない。参考文献などを適宜提示する。
【成績評価方法】	ディスカッションへの準備状況および参加度、レポートを総合的に判断する。
【備考】	並行して地域生活支援分野関連の科目を履修することが望ましい。

科目名	精神保健看護学演習
英語名	Advanced seminar :Advanced Mental Health Nursing
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	宮城 純子
【授業概要】	精神保健医療福祉の歴史的変遷を踏まえた精神保健福祉制度動向について学ぶ。さらに精神保健や精神医療に関連する研究文献の批判的考察や理論的検討を通して、精神保健に関連する諸問題や地域で生活する精神障害者の家族や倫理的問題について研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。
【到達目標】	1. 精神保健看護学に関連する国内外の研究の動向を把握する。 2. 自己の研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にする。 3. 研究課題に基づき、研究計画の作成ができる。
【計画・内容】	1. ガイダンス 精神保健看護学領域における研究の広がり 2. 精神保健看護学領域に関連した国内外の研究の動向 3. 精神保健看護学研究の課題と研究方法論(質的研究における方法論の整理) 4. 精神保健看護学研究の課題と研究方法論(量的研究における方法論の整理) 5. 精神的困難を抱えた人に関する研究の動向 6. 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(精神障害者リハビリテーション・リカバリー他) 7. 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(アウトリーチ・家族支援他) 8. 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(アルコール・薬物依存症の動向とケア他) 9. 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(触法精神障害者と関連する医療者へのケア・危機介入他) 10. 精神保健学領域における倫理的配慮と利益相反の検討 11. 問題意識と追及課題の研究手法について学ぶ(精神障害者リハビリテーション・家族支援) 12. 問題意識と追及課題の研究手法について学ぶ((アルコール・薬物依存症の動向とケア他) 13. 問題意識と追及課題の研究手法について学ぶ(触法精神障害者と関連する医療者へのケア・危機介入他) 14. 研究計画の作成と討論 15. 研究計画の作成と倫理的問題の検討 予習:各回必ず、自分の研究テーマに関連があると思われる文献を読んだうえで出席すること 復習:予習・授業を通しての整理と抄読文献の整理を行うこと
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	ディスカッションへの準備状況および参加度、レポートを総合的に判断する。
【備考】	

科目名	地域看護学特論
英語名	Advanced Community Health nursing
学期	1・2年前期
単位数	2
【担当教員】	吉岡 幸子
【授業概要】	住み慣れた地域でその人らしく生きていくことができるための個別支援やコミュニティづくりを看護学の立場から、地域看護特論として教授する。包括的な視点から問題解決に向けた保健活動を展開するための各種理論やモデルを学び、ポピュレーションアプローチ・ハイリスクアプローチの方法を対象の特性(母子・精神・高齢者)、集団の特性(家族・自助グループ)、支援の場(在宅、地域包括支援センター)に応じて教授する。これらをもとに事例や既存の研究を分析し、地域における看護職の活動について、今後の展望まで含めて探求する。
【到達目標】	1. 地域特性による住民の多様な健康課題が理解できる。 2. 多様な生き方・価値観を理解し、対応方法(ポピュレーション・ハイリスクアプローチ)の理解ができる。 3. 地域システムづくりの重要性を理解し、考察できる。
【計画・内容】	1) 地域看護の歴史の変遷 2) 地域看護における理論①(ヘルスプロモーション・ICFモデル) 3) 地域看護における理論②(コミュニティ・アズ・パートナー・ソーシャルキャピタル) 4) 地域看護看護活動の場と特性 5) 地域における対象別支援の現状と課題①(乳幼児健診、新生児全戸訪問やネウボラ支援) 6) 地域における対象別支援の現状と課題②(育児不安・虐待防止支援活動) 7) 地域における対象別支援の現状と課題③(生活習慣病予防と対策) 8) 地域における対象別支援の現状と課題④(フレイル早期発見・対応) 9) 地域における対象別支援の現状と課題⑤(アディクション問題) 10) 地域における対象別支援の現状と課題⑥(アディクションに関わる家族支援・自助グループ) 11) 地域における対象別支援の現状と課題⑦(介護問題と高齢者虐待) 12) 地域における対象別支援の現状と課題⑧(セルフ・ネグレクト、孤立死防止対策) 13) 地域包括ケアシステムづくり 14) 地域包括ケアシステムの課題 15) まとめ 予習 関連資料をあらかじめ読んでおくこと 復習 内容について再度、要点をまとめておくこと
【教科書・参考書】	テキストは指定せず、講義開始前に参考文献などを適宜提示する
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価
【備考】	

科目名	地域看護学演習
英語名	Advanced seminar :Advanced Community Health nursing
学期	1・2年後期
単位数	2
【担当教員】	吉岡 幸子
【授業概要】	本演習は、地域看護に関連する研究文献を批判的考察による理論的検討を通して、地域看護分野の改善を図るためのケアシステム開発や地域の健康課題に対する解決方策等について、研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。
【到達目標】	1.地域看護分野における国内外の研究の動向を把握する 2.自己の研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にする 3.研究課題に基づき、研究計画の作成ができる
【計画・内容】	1)ガイダンス 2)地域看護・公衆衛生看護に関連する国内外の研究の動向①(日本の研究の動向) 3)地域看護・公衆衛生看護に関連する国内外の研究の動向②(アメリカ・イギリスの研究の動向) 4)各自の関心分野の課題と研究方法論①(量的研究方法論) 5)各自の関心分野の課題と研究方法論②(質的健康方法論) 6)地域看護研究の動向 7)関心テーマにそった文献検討とクリティーク①(量的研究論文のクリティーク) 8)関心テーマにそった文献検討とクリティーク②(質的研究論文のクリティーク) 9)関心テーマにそった文献検討とクリティーク③(混合法等を用いた研究論文のクリティーク) 10)研究における倫理的配慮と利益相反の検討 11)問題意識と追究課題の検討① 関心ある問題意識を発表し、追求課題を議論する。 12)問題意識と追究課題の検討② ①で議論した内容を踏まえて、研究方法を議論する。 13)問題意識と追究課題の検討③ ①②を踏まえて追及する課題を明確化する。 14)研究計画の作成と討論① 研究計画書の作成し、討論する。 15)研究計画の作成と討論② ①で討論した内容を踏まえて最終的な計画書を作成する。 予習:毎回、指定された課題は行うこと 復習:授業で得た知識は、追求したい研究課題に反映させるように整理すること
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議での取り組みと貢献度により、総合的に評価する。
【備考】	

科目名	母性看護学特論
英語名	Advanced Women's Health Nursing
学期	1・2前期
単位数	2
【担当教員】	新野 由子
【授業概要】	<p>現代社会に生きる、思春期、性成熟期、更年期と生涯を通じた女性の健康、母性・父性(親性)の発達過程とその支援する看護の役割、周産期における母性(妊産褥婦)とその家族への支援、地域のサポート体制の構築を教授する。</p> <p>さらに、昨今の核家族化やIT化社会における生活様式の変化を踏まえ母性看護学分野における看護師の役割、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にするための学修を深める。</p>
【到達目標】	<ol style="list-style-type: none"> 1. リプロダクティブ・ヘルス&ライツやウェルビーイングの観点から、思春期、性成熟期、更年期にある女性、子ども、パートナー、家族の健康生活の特性や課題を理解し説明ができる。 2. 母性看護における主要概念や諸理論(セルフケア理論、愛着理論、レイニンガー、ワトソンの理論など)について理解し説明ができる。 3. 上記の1. 2. の学びを踏まえて助成の健康問題や周産期の母子及び家族への看護実践への適応の可能性について考察できる。
【計画・内容】	<ol style="list-style-type: none"> 1) 母性看護学の学問としての歴史とその変遷 2) リプロダクティブ・ヘルス&ライツと母性看護①(国連人口開発会議、カイロ会議からの流れ) 3) リプロダクティブ・ヘルス&ライツと母性看護②(生涯を通じた女性の健康支援という概念) 4) 母性看護学領域で用いられる概念・理論の理解①(ジェンダー・セクシュアリティ) 5) 母性看護学領域で用いられる概念・理論の理解②(セルフケア理論) 6) 母性看護学領域で用いられる概念・理論の理解③(レイニンガー、ワトソンの理論) 7) 母性看護学領域で用いられる概念・理論の理解④(母性発達課題と親役割獲得) 8) 母性看護学領域で用いられる概念・理論の理解⑤(愛着理論、母子・父子相互作用) 9) 母性看護学に関する法律・制度の理解①(母子保健法、戸籍法、地域保健法、医療法等) 10) 母性看護学に関する法律・制度の理解②(母体保護法、刑法、男女雇用機会均等法等) 11) ライフサイクルにおける健康問題・課題①(思春期) 12) ライフサイクルにおける健康問題・課題②(性成熟期) 13) ライフサイクルにおける健康問題・課題③(老年期) 14) 母性看護における倫理的問題と課題 15) まとめ <p>予習: 関連資料をあらかじめ読み、講義でのディスカッションへの参加。 復習: 要点をまとめること。</p>
【教科書・参考書】	テキストは指定せず、講義開始前に参考文献などを適宜提示する
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議への取り組みとディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。
【備考】	

科目名	母性看護学演習
英語名	Advanced Seminar :Advanced Women's Health Nursing
学期	1・2後期
単位数	2
【担当教員】	新野 由子
【授業概要】	本演習は、母性看護に関連する研究文献を批判的考察による理論的検討を通して、母性看護分野の改善を図るためのケアシステム開発や健康課題に対する解決方策等について、研究課題・研究方法を討議し、研究に必要な能力を修得する。
【到達目標】	1.母性看護分野における国内外の研究の動向を把握する 2.自己の研究疑問に関連した文献検討を行い、研究課題を明確にする 3.研究課題に基づき、研究計画書の作成ができる
【計画・内容】	1) ガイダンス 2) 対象の健康課題に関する文献レビュー(1)(文献レビュー論文を紹介) 3) 対象の健康課題に関する文献レビュー(2)(レビュー論文から何が分かるか、討議を行う) 4) 各自の関心のある研究論文のクリティーク(1)(例;父性意識の研究等) 5) 各自の関心のある研究論文のクリティーク(2)(例;高齢出産の母親の意識の変化等) 6) 各自の関心のある研究論文のクリティーク(3)(例;働く女性の妊娠・出産・育児を支える人や物) 7) 各自の関心のある研究論文のクリティーク(英語論文) 8) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(1)(学生の関心テーマから選ぶ) 9) 関心テーマにそった文献検討とクリティーク(2)(学生の関心テーマや関連するテーマを選ぶ) 10) 研究における倫理的配慮と利益相反の検討 11) 問題意識と追究したい課題の検討(1)(学生が問題意識を持っている事象から課題を検討) 12) 問題意識と追究したい課題の検討(2)(上記(1)は日本国内では、どこまで明らかになっているか) 13) 問題意識と追究したい課題の検討(3)(上記(1)は英語圏では、どこまで明らかになっているか) 予習と復習: 追究課題の背景、関連する先行文献のレビュー、有効な諸理論の検討実現可能な研究方法 14) 研究計画の作成と討論(1)(研究企画書を書き、研究の具体的なイメージを明確化する) 15) 研究計画の作成と討論(2)(研究企画書の質を高め研究倫理委員会への提出資料も作成) 予習と復習: 計画案の作成
【教科書・参考書】	特に指定しない。随時、提示する。
【成績評価方法】	プレゼンテーション内容、討議への取り組みとディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。
【備考】	本演習は、研究に取り組むための土台となるものなので、積極的に課題に取り組むことが求められる。そのため、予習と復習は必ず行い、学びを確実に積み上げていく事。

科目名	看護学特別研究 I
英語名	Special Project in Nursing Research I
学期	1年通年
単位数	4
【担当教員】	吉岡 幸子／津田 茂子／小葉 祐子／志田 久美子／新野 由子／伊藤 久美／宮城 純子／大西 奈保子／佐藤 亜月子／清野 純子／糸井 和佳／大釜 信政
【授業概要】	看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。 特別研究 I においては、研究テーマの立案を行った後、研究テーマに沿って先行研究について文献検討等を十分に行い、観察・調査・実験等の手法を用いてデータを収集し、論文作成の過程を実施する能力を修得する。
【到達目標】	1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を設定できる。 2. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを明確化できる。 3. 研究課題を解明するため適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究の意図と研究課題の決定 2. 研究計画の立案 3. 研究計画書の作成の指導 4. データ収集・分析の討議 5. 研究計画発表会に向けての指導 ※学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行う。
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	文献検索・検討(30%)、研究デザイン(30%)、研究計画書の作成(40%) ※研究計画発表会は研究活動の進捗状況の確認及び研究内容についての指導のために実施するものであり、その内容についての評価は行わない。
【備考】	

科目名	看護学特別研究Ⅱ
英語名	Special Project in Nursing Research Ⅱ
学期	2年通年
単位数	4
【担当教員】	吉岡 幸子／津田 茂子／小栗 祐子／志田 久美子／新野 由子／伊藤 久美／宮城 純子／大西 奈保子／佐藤 亜月子／清野 純子／糸井 和佳／大釜 信政
【授業概要】	看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。 特別研究Ⅱにおいては、各自の研究活動を通じて、収集された研究データを分析し、関連学会の発表や学術論文として公表する能力を修得する。
【到達目標】	1. 対象者に倫理的に配慮をしたうえで適切な研究方法を用いてデータを収集し、客観的・科学的に分析できる。 2. 研究成果を分かりやすく記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究計画書に基づいたデータ収集と分析の指導 2. 修士論文中間発表会に向けての指導 3. 修士論文の提出に向けての指導 4. 修士論文発表会における発表に向けての指導 5. 審査委員会による審査と指導 6. 修士論文(最終提出)に向けての指導 7. 修士論文の公表
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	修士論文発表会、修士論文を総合的に評価する。
【備考】	

科目名	看護学特別研究 I
英語名	Special Project in Nursing Research I
学期	1年通年
単位数	4
【担当教員】	吉岡 幸子／津田 茂子／小葉 祐子／志田 久美子／新野 由子／伊藤 久美／宮城 純子 ／大西 奈保子／佐藤 亜月子／清野 純子／糸井 和佳／大釜 信政
【授業概要】	看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。 特別研究 I においては、研究テーマの立案を行った後、研究テーマに沿って先行研究について文献検討等を十分に行い、観察・調査・実験等の手法を用いてデータを収集し、論文作成の過程を実施する能力を修得する。
【到達目標】	1. 文献検索・文献検討を行い、研究課題を設定できる。 2. 探求したい研究課題に関して、研究デザインを明確化できる。 3. 研究課題を解明するため適切な研究方法を選択し、倫理的配慮を含めた研究計画書を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究の意図と研究課題の決定 2. 研究計画の立案 3. 研究計画書の作成の指導 4. データ収集・分析の討議 5. 研究計画発表会に向けての指導 ※学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行う。
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	文献検索・検討(30%)、研究デザイン(30%)、研究計画書の作成(40%) ※研究計画発表会は研究活動の進捗状況の確認及び研究内容についての指導のために実施するものであり、その内容についての評価は行わない。
【備考】	

科目名	看護学特別研究Ⅱ
英語名	Special Project in Nursing Research Ⅱ
学期	2年通年
単位数	4
【担当教員】	吉岡 幸子／津田 茂子／小栗 祐子／志田 久美子／新野 由子／伊藤 久美／宮城 純子 ／大西 奈保子／佐藤 亜月子／清野 純子／糸井 和佳／大釜 信政
【授業概要】	看護学を構成する療養生活支援看護学分野・地域生活支援看護学分野の履修を通じて深めてきた看護学に関する問題意識を具体的な研究課題へと焦点化し、適切な研究方法により得られた根拠と論理により探求した成果を修士論文にまとめ、公開の場で発表するまでの一連の過程を指導する。 特別研究Ⅱにおいては、各自の研究活動を通じて、収集された研究データを分析し、関連学会の発表や学術論文として公表する能力を修得する。
【到達目標】	1. 対象者に倫理的に配慮をしたうえで適切な研究方法を用いてデータを収集し、客観的・科学的に分析できる。 2. 研究成果を分かりやすく記述し、客観的・科学的な考察を加えて論文を作成できる。
【計画・内容】	特に以下の点に関して、各自の研究に関連する発表を行い、教員や他の受講生と討議を行う。 1. 研究計画書に基づいたデータ収集と分析の指導 2. 修士論文中間発表会に向けての指導 3. 修士論文の提出に向けての指導 4. 修士論文発表会における発表に向けての指導 5. 審査委員会による審査と指導 6. 修士論文(最終提出)に向けての指導 7. 修士論文の公表
【教科書・参考書】	必要に応じ、適宜提示する。
【成績評価方法】	修士論文発表会、修士論文を総合的に評価する。
【備考】	

【別紙3】

年次	月	学生	研究指導教員	研究科委員会等
1 年 次	4月	入学式 オリエンテーション 履修申告 研究課題の決定	履修指導 研究課題の指導 研究計画書の指導	指導教員決定
	5月	履修確認・修正申告		
	8月	前期定期試験		
	1月	研究計画発表会 ^{※1}		研究倫理審査 ^{※2}
	1月～2月	後期定期試験		
2 年 次	4月	履修申告	履修指導 論文作成指導	
	5月	履修確認・修正申告		
	5月～7月	修士論文中間発表会	論文修正等の指導	
	8月	前期定期試験		
	1月中旬	学位論文審査申請	学位審査委員候補者 名簿作成	学位審査委員の 選出
	1月～2月	後期定期試験		
	2月	修士論文発表会 最終試験		
	3月	学位授与		学位論文審査・最 終試験結果の報告 学位授与の認定

※1学生の研究の進捗状況を鑑み、必要に応じ、追加で研究計画発表会を行う等の対応を行う。

※2研究倫理審査は必要な場合に順次実施。実施時期については柔軟に対応する。

平成32年度 前期 授業時間割表 (医療科学研究科 看護学専攻 1・2年)

<前期> 千住キャンパス 医療科学研究科 看護学専攻 1年

時限	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		
	授業科目名	担当教員名	授業科目名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名
1時限													
2時限													
3時限													
4時限													
5時限													
6時限	保健・医療統計学特論	○堀	2303教室		生命倫理特論	○沖水	2303教室	母性看護学特論	新野	2303教室	地域看護学特論	吉岡	2303教室
7時限	看護理論特論	津田(茂)	2303教室		フィンテック・AI特論	大西	2303教室	小児看護学特論	津田(茂)	2303教室	精神保健看護学特論	宮城	2303教室

<前期> 千住キャンパス 医療科学研究科 看護学専攻 2年

時限	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		
	授業科目名	担当教員名	授業科目名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名	授業科目名	担当教員名	教室名
1時限													
2時限													
3時限													
4時限													
5時限													
6時限	保健・医療統計学特論	○堀	2303教室		生命倫理特論	○沖水	2303教室	母性看護学特論	新野	2303教室	地域看護学特論	吉岡	2303教室
7時限	看護理論特論	津田(茂)	2303教室		フィンテック・AI特論	大西	2303教室	小児看護学特論	津田(茂)	2303教室	精神保健看護学特論	宮城	2303教室

備考

- ①. [] の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

授業時間	時限
09:00~10:30	1時限
10:40~12:10	2時限
13:00~14:30	3時限
14:40~16:10	4時限
16:20~17:50	5時限
18:00~19:30	6時限
19:40~21:10	7時限

平成32年度 後期 授業時間割表 (医療科学研究科 看護学専攻 1・2年)

<後期> 千住キャンパス 医療科学研究科 看護学専攻 1年

時限	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		
	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	
1時限											看護倫理特論	伊藤(久)、大西	2303教室
2時限											多職種連携特論	吉岡、志田、山田、宮下、坂野	2303教室
3時限											看護学特別研究Ⅰ	吉岡、津田(茂)、小栗、志田、新野、伊藤(久)、宮城、大野、佐藤、津野、糸井、大森	各研究室
4時限													
5時限													
6時限	生活習慣病予防学特論	2303教室	職業生活ケア演習	2303教室	社会病理学特論	鈴木	小児看護学演習	津田(茂)	2303教室	精神保健看護学演習	宮城	2303教室	
7時限	看護システムマネジメント特論	2303教室	緩和ケア演習	2303教室	看護教育学特論	小栗、志田、梅津、佐藤	母性看護学演習	新野	2303教室	地域看護学演習	吉岡	2303教室	

<後期> 千住キャンパス 医療科学研究科 看護学専攻 2年

時限	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		土曜日		
	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	授業科目名	教室名	
1時限											看護倫理特論	伊藤(久)、大西	2303教室
2時限											多職種連携特論	吉岡、津田(茂)、山田、宮下、坂野	2303教室
3時限											看護学特別研究Ⅱ	吉岡、津田(茂)、小栗、志田、新野、伊藤(久)、宮城、大野、佐藤、津野、糸井、大森	各研究室
4時限													
5時限													
6時限	生活習慣病予防学特論	2303教室	職業生活ケア演習	2303教室	社会病理学特論	鈴木	小児看護学演習	津田(茂)	2303教室	精神保健看護学演習	宮城	2303教室	
7時限	看護システムマネジメント特論	2303教室	緩和ケア演習	2303教室	看護教育学特論	小栗、志田、梅津、佐藤	母性看護学演習	新野	2303教室	地域看護学演習	吉岡	2303教室	

備考

- ①. [] の授業科目は必修科目です。
- ②. 担当教員の○印は、非常勤講師です。

時限	授業時間
1時限	09:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30
7時限	19:40～21:10

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分					
1	看護学科	教授	吉岡 幸子	学部	前期	公衆衛生看護方法論Ⅱ	月	3	0.07	オムニバス					
					前期	公衆衛生看護方法論Ⅲ	月	3	0.07	オムニバス					
					前期	公衆衛生看護概論	月	1	0.53	隔週偶数 オムニバス					
					前期	地域看護支援論Ⅲ	火	3.4	0.53	オムニバス					
					前期	地域看護支援論Ⅱ	水	1	0.53	オムニバス					
					前期	多職種連携(医療福祉学科)	木	5	0.07	オムニバス					
					前期	多職種連携	—	3.4.5	0.20	集中講義 オムニバス					
					前期	地域看護学実習	別途								
					前期	統合実習	別途			集中講義					
					前期	助言指導(3年生)	—	—	—						
					後期	多職種連携(作業療法学科)	火	2	0.07	オムニバス					
					後期	看護学概論(医療福祉学科)	—	—	0.07	オムニバス					
					後期	在宅看護学概論	火	4	0.07	オムニバス					
					後期	チーム医療実践論	水	3.4	0.53	オムニバス					
					後期	看護研究Ⅱ	木	1	1.00						
					後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	3	0.27	オムニバス					
					後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	4	0.13	オムニバス					
					後期	在宅看護学実習Ⅰ	別途			集中講義					
				後期	助言指導(3年生)	—	—	—							
				修士	前期	地域看護学特論	金	6	1.00						
					前期	地域生活支援看護学総論	土	5	0.33	オムニバス					
					後期	多職種連携特論	水	6	0.33	オムニバス					
					後期	地域看護学演習	金	7	1.00						
					通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00						
					通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00						
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く											
				前期:5.33コマ 後期:5.47コマ											
				実習	実習日数			時期	単位	実習担 当人数	備考				
					7週	5週×1クール(保健師課程)		前期	5単位	3人					
						2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人					
				管理運営業務等											
				教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 入学試験委員会											
				2	看護学科	教授	津田 茂子	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00		
前期	小児看護援助論Ⅰ	木	2						0.27	隔週偶数 オムニバス					
前期	小児看護援助論Ⅱ-2	—	—						0.47	オムニバス					
前期	小児看護学実習	別途							集中講義						
前期	統合実習	別途							集中講義						
前期	助言指導(1年生)	—	—						—						
前期	基礎ゼミ	—	—						1.00						
後期	助言指導(1年生)	—	—						—						
後期	小児看護援助論Ⅱ-1	木	2.3						0.13	オムニバス					
後期	小児看護学実習	別途							集中講義						
後期	看護研究Ⅱ	—	1.3						1.00						
修士	前期	看護学研究法特論Ⅰ	土						1	0.47	オムニバス				
	前期	看護理論特論	月					7	1.00						
	前期	小児看護学特論	木					7	1.00						
	前期	療養生活支援看護学総論	土					4	0.13	オムニバス					
	後期	小児看護学演習	木					6	1.00						
	通年	看護学特別研究Ⅰ	土					3	1.00						
	通年	看護学特別研究Ⅱ	土					3	1.00						
	コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く														
	前期:7.33コマ 後期:4.13コマ														
実習	実習日数							時期	単位	実習担 当人数	備考				
	8週	2週×3クール(小児看護学実習)		10月~2月	2単位	4人									
		2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人									
管理運営業務等															
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 利益相反委員会															

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
3	看護学科	教授	小薬 祐子	学部	前期	基礎ゼミ	月	2	0.53					
					前期	看護学概論	火	2	0.73					
					前期	基礎看護技術Ⅰ-2	火	4	0.53	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	基礎看護技術Ⅲ-1	金	4・5	1.00					
					前期	基礎看護技術Ⅱ-1	金	4・5	1.00					
					前期	基礎看護学実習Ⅰ		別途		集中講義				
					前期	統合実習		別途		集中講義				
					前期	助言指導(4年生)	—	—	—					
					後期	ヘルスアセスメント	月	2	0.20	オムニバス				
					後期	基礎看護技術Ⅲ-2	月	4・5	0.80	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	火	3	1.00					
					後期	基礎看護技術Ⅱ-2	火	4・5	1.80					
					後期	看護倫理	木	2	0.33	オムニバス				
					後期	基礎看護学実習Ⅱ		別途		集中講義				
					後期	助言指導(Ⅰ年生)	—	—	—					
				修士	後期	看護教育学特論	水	7	0.33	オムニバス				
					通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
					コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く									
				前期:6.80コマ 後期:6.47コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					8週	1週×2クール(基礎看護学実習Ⅰ)		7月	1単位	6人				
						2週×2クール(基礎看護学実習Ⅱ)		2月	2単位	6人				
						2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人				
				管理運営業務等										
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) なし														
4	看護学科	教授	志田 久美子	学部	前期	基礎看護技術Ⅱ-1	月	4・5	1.00					
					前期	基礎看護技術Ⅰ-2	火	4	0.53	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	医療安全論	木	2	0.80	集中講義				
					前期	基礎看護技術Ⅲ-1	金	4・5	1.00					
					前期	統合実習		別途						
					前期	基礎看護学実習Ⅰ		別途		集中講義				
					前期	助言指導	—	—	—					
					後期	基礎看護技術Ⅰ-1	月	5	0.53	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					後期	基礎看護技術Ⅱ-2	火	4・5	1.80					
					後期	ヘルスアセスメント	水	2	0.20	オムニバス				
					後期	看護学概論Ⅱ	金	1	0.40	オムニバス				
					後期	基礎看護学実習Ⅱ		別途		集中講義				
					後期	助言指導	—	—	—					
					修士	後期	看護教育学特論	水	7	0.20	オムニバス			
				後期		多職種連携特論	土	2	0.27	オムニバス				
				通年		看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:6.33コマ 後期:6.40コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					8週	1週×2クール(基礎看護学実習Ⅰ)		7月	1単位	6人				
						2週×2クール(基礎看護学実習Ⅱ)		2月	2単位	6人				
						2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人				
				管理運営業務等										
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 教務・学生委員会														

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
5	看護学科	教授	新野 由子	学部	前期	生命倫理	月	2	0.20	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	母性看護援助論Ⅱ	木	3	0.33	オムニバス				
					前期	母性看護学概論	金	3	0.40	オムニバス				
					前期	統合実習				別途				
					前期	助言指導	—	—	—					
					後期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					後期	母性看護援助論Ⅰ	水	3・4	0.47					
					後期	国際看護学	水	3	0.13	オムニバス				
					後期	助言指導	—	—	—					
					修士	前期	母性看護学特論	木	6	1.00				
						前期	看護学研究法特論Ⅰ	土	1	0.13	オムニバス			
						前期	地域生活支援看護学総論	土	5	0.13	オムニバス			
						後期	看護システムマネジメント特論	月	7	0.40	オムニバス			
				後期		母性看護学演習	木	7	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00						
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:5.20コマ 後期:5.00コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					2週	2週×1クール(統合実習)	9月	2単位	31人					
				管理運営業務等										
				教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) なし										
				6	看護学科	教授	伊藤 久美	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00	
									前期	小児看護学概論	木	2	0.53	隔週奇数 オムニバス
									前期	小児看護援助論Ⅰ	木	2	0.13	隔週偶数 オムニバス
									前期	小児看護援助論Ⅱ-2	—	—	0.47	
前期	小児看護学実習									別途				
前期	看護管理	—	3.4						0.33	オムニバス				
前期	家族看護	—	3.4						0.40	オムニバス				
前期	統合実習									別途				
前期	助言指導(4年生)	—	—						—					
後期	小児看護援助論Ⅱ-1	木	2.3						0.07	オムニバス				
後期	小児看護学実習									別途				
後期	家族看護	—	2						0.40	オムニバス				
後期	看護研究Ⅱ	—	1.3						1.00					
後期	助言指導(4年生)	—	—						—					
修士	前期	療養生活支援看護学総論	金					6	0.20	オムニバス				
	後期	看護倫理特論	月					6	0.47	オムニバス				
	通年	看護学特別研究Ⅰ	土					3	1.00					
	通年	看護学特別研究Ⅱ	土					3	1.00					
コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く														
前期:5.07コマ 後期:3.93コマ														
実習	実習日数		時期					単位	実習担 当人数	備考				
	8週	2週×3クール(小児看護学実習) 2週×1クール(統合実習)	10月~2月 9月					2単位 2単位	4人 31人					
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 就職戦略委員会														

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
7	看護学科	教授	宮城 純子	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	2	1.00					
					前期	精神看護学概論	火	2	0.33	隔週偶数 オムニバス				
					前期	心とストレス	水	4	0.07	週間授業				
					前期	精神看護援助論Ⅱ	木	1	0.33	オムニバス				
					前期	精神看護学実習				別途 集中講義				
					前期	統合実習				別途 集中講義				
					前期	国家試験対策講義	—	—	0.13	オムニバス				
					前期	精神看護援助論Ⅱ(旧カリ)	—	—	0.73	オムニバス				
					前期	心とストレス(旧カリ)	—	—	0.27	オムニバス				
					前期	助言指導(2年)	—	—	—					
					後期	精神看護学実習				別途 集中講義				
					後期	助言指導(2年)	—	—	—					
					後期	精神看護援助論Ⅰ	火	3	0.33					
				後期	看護研究Ⅱ	火	2	1.00						
				修士	前期	精神保健看護学特論	金	7	1.00					
					前期	看護学研究法特論Ⅱ	土	2	0.27	オムニバス				
					前期	地域生活支援看護学総論	土	5	0.20	オムニバス				
					後期	精神保健看護学演習	金	6	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
					コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く									
				前期:5.00コマ 後期:4.33コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					8週	2週×3クール(精神看護学実習)		10月～2月	2単位	3人				
				2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人						
				管理運営業務等										
				教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) ハラスメント防止委員会										
8	看護学科	教授	大西 奈保子	学部	前期	生命倫理	月	2	0.20	オムニバス				
					前期	成人看護援助論Ⅲ	火	2	0.47	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	成人看護援助論Ⅰ-1	木	1	0.33	オムニバス				
					前期	統合実習				別途 集中講義				
					前期	成人看護学実習Ⅰ				別途 集中講義				
					前期	助言指導(4年)	—	—	—					
					前期	成人看護援助論Ⅲ(旧カリ)	—	—	0.47	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	火	3	1.00					
					後期	成人看護学概論	金	3	0.27	オムニバス				
					後期	成人看護援助論Ⅰ-2	金	4	0.27	オムニバス				
					後期	成人看護学実習Ⅰ				別途 集中講義				
					後期	助言指導(4年)	—	—	—					
				修士	前期	看護学研究法特論Ⅱ	土	2	0.27	オムニバス				
					前期	緩和ケア特論	火	7	1.00					
					前期	療養生活支援看護学総論	土	4	0.33	オムニバス				
					後期	看護倫理特論	月	6	0.53	オムニバス				
					後期	緩和ケア演習	火	7	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く														
前期:6.07コマ 後期:5.07コマ														
実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考								
	20週	3週×6クール(成人看護学実習Ⅰ)		10月～2月	3単位	3人	非常勤:2018年度実績 では47日勤務							
2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人										
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 利益相反委員会、人を対象とする研究に関する倫理審査委員会														

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
9	看護学科	准教授	梅津 靖江	学部	前期	在宅看護学概論	火	4	0.20	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	在宅看護援助論Ⅱ	水	4	0.40					
					前期	医療安全論	木	2	0.13					
					前期	在宅看護学実習			別途	集中講義				
					前期	統合実習			別途	集中講義				
					前期	助言指導	—	—	—					
					後期	在宅看護援助論Ⅰ	火	4	0.33	オムニバス				
					後期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					後期	看護教育学	金	1	0.13	オムニバス				
					後期	看護学概論	金	3	0.13	オムニバス				
					後期	在宅看護学実習Ⅱ			別途	集中講義				
					後期	在宅看護学実習Ⅰ			別途					
					後期	助言指導	—	—	—					
				修士	後期	看護教育学特論	水	7	0.33	オムニバス				
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:1.73コマ 後期:1.93コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					12週	1週×2クール(在宅看護学実習Ⅰ)		10月~2月	1単位	3人				
						1週×8クール(在宅看護学実習Ⅱ)		2月	1単位	3人				
						2週×1クール(統合実習)		9月	2単位	31人				
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 衛生委員会														
10	看護学科	准教授	佐藤 亜月子	学部	前期	基礎看護技術Ⅱ-1	月	4.5	1.00					
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	看護理論	木	1・2	0.47	集中講義				
					前期	基礎看護技術Ⅲ-1	金	4・5	1.00					
					前期	基礎看護技術Ⅲ-2	金	4・5	0.80					
					前期	基礎看護学実習Ⅰ			別途	集中講義				
					前期	統合実習			別途	集中講義				
					前期	助言指導	—	—	—					
					後期	看護研究Ⅱ	火	2	1.00					
					後期	基礎看護技術Ⅱ-2	火	4・5	1.80					
					後期	ヘルスアセスメント	水	2	0.60	オムニバス				
					後期	看護学概論Ⅱ	金	3	0.20	オムニバス				
					後期	基礎看護学実習Ⅱ			別途	集中講義				
					後期	助言指導	—	—	—					
				修士	後期	看護教育学特論	水	7	0.13	オムニバス				
				通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00						
				通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00						
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:6.27コマ 後期:5.73コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					8週	1週×2クール(基礎看護学実習Ⅰ)		7月	1単位	6人				
2週×2クール(基礎看護学実習Ⅱ)		2月	2単位			6人								
2週×1クール(統合実習)		9月	2単位			31人								
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 発明委員会														

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
11	看護学科	准教授	清野 純子	学部	前期	成人看護援助論Ⅱ	火・木・金	4・5	1.40					
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	成人看護援助論Ⅰ-1	水	1	0.07					
					前期	統合実習		別途		集中講義				
					前期	成人看護学実習Ⅱ		別途		集中講義				
					前期	助言指導(2年)	—	—	—					
					後期	看護研究Ⅰ	月・木・金	1・2	0.53					
					後期	看護研究Ⅱ	火	3	1.00					
					後期	成人看護学概論	金	3	0.13	オムニバス				
					後期	成人看護援助論Ⅰ-2	金	4	0.27	オムニバス				
					後期	成人看護学実習Ⅱ		別途		集中講義				
					後期	助言指導(2年)	—	—	—					
					修士	前期	地域生活支援看護学総論	土	5	0.13	オムニバス			
				通年		看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
				通年		看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:4.60コマ 後期:3.93コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					20週	3週×6クール(成人看護学実習Ⅱ)	10月～2月	3単位	3人	非常勤:2018年度実績 では11日勤務				
						2週×1クール(統合実習)	9月	2単位	31人					
				管理運営業務等										
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) ファカルティ・ディベロップメント委員会														
12	看護学科	准教授	糸井 和佳	学部	前期	公衆衛生看護方法論Ⅲ	月	3	0.07	オムニバス				
					前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	地域看護学実習		別途		集中講義				
					前期	統合実習		別途		集中講義				
					前期	助言指導	—	—	—					
					前期	地域看護支援論Ⅲ	—	—	0.53	オムニバス				
					前期	地域看護支援論Ⅱ	—	—	0.53	オムニバス				
					前期	公衆衛生看護方法論Ⅱ	—	2	0.47	オムニバス				
					後期	災害看護学	—	—	0.20	オムニバス				
					後期	地域包括ケアシステム論	—	2	0.13					
					後期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					後期	チーム医療実践論	水	0	0.53	オムニバス				
					後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	3	0.27	オムニバス				
				後期	公衆衛生看護方法論Ⅰ	金	4	0.13	オムニバス					
				後期	在宅看護学実習Ⅰ		別途		集中講義					
				後期	助言指導	—	—	—						
				後期	看護研究Ⅰ	—	—	1.00						
				修士	前期	看護学研究法特論Ⅰ	土	1	0.13	オムニバス				
					前期	療養生活ケア特論	火	6	1.00					
					前期	療養生活支援看護学総論	金	6	0.13	オムニバス				
					前期	看護学研究法特論Ⅱ	土	2	0.40	オムニバス				
後期	療養生活ケア演習	火	6		1.00									
通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00										
通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00										
コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く														
前期:6.27コマ 後期:6.27コマ														
実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考								
	7週	5週×1クール(保健師課程)	前期	5単位	3人									
		2週×1クール(統合実習)	9月	2単位	31人									
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) 自己点検・評価委員会(総括委員会、第二部会、第四部会)														

No	所属学科	職位	教員氏名	学部/ 修士/ 実習	学期	科目名称	曜日	時限	コマ数	授業区分				
13	看護学科	准教授	大釜信政	学部	前期	看護研究Ⅱ	火	1	1.00					
					前期	成人看護援助論Ⅰ-1	水	1	0.73					
					前期	統合実習			別途	集中講義				
					前期	成人看護学実習Ⅰ			別途	集中講義				
					前期	臨床検査	—	4・5	1.00	集中講義				
					前期	助言指導(3年)	—	—	—					
					後期	看護研究Ⅱ	木	1・3	1.00					
					後期	看護研究Ⅰ	金	1・2	0.60					
					後期	成人看護学概論	金	3	0.13	オムニバス				
					後期	成人看護援助論Ⅰ-2	金	4	0.53	オムニバス				
					後期	看護学概論Ⅰ	金	1	0.13	オムニバス				
					後期	成人看護学実習Ⅰ			別途	集中講義				
					後期	助言指導(3年)	—	—	—					
				修士	前期	フィジカルアセスメント特論	水	7	1.00					
					前期	地域生活支援看護学総論	土	5	0.20	オムニバス				
					後期	看護システムマネジメント特論	月	7	0.60	オムニバス				
					通年	看護学特別研究Ⅰ	土	3	1.00					
					通年	看護学特別研究Ⅱ	土	3	1.00					
				コマ数集計(学部・修士総計)※実習除く										
				前期:5.93コマ 後期:5.00コマ										
				実習	実習日数		時期	単位	実習担 当人数	備考				
					20週	3週×6クール(成人看護学実習Ⅰ)	10月～2月	3単位	3人	非常勤:2018年度実績 では32日勤務				
						2週×1クール(統合実習)	9月	2単位	31人					
管理運営業務等														
教授会…1回/月、学科会議…1回/月 (所属委員会等) ファカルティ・ディベロップメント委員会														

番号	職位	氏名 ＜就任(予定)年月＞	退職時年齢	退職年月日	担当授業科目	採用計画
1	教授	吉岡 幸子 ＜平成32年4月＞		平成34年3月	多職種連携特論※ 地域生活支援看護学総論※ 地域看護学特論 地域看護学演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	【平成34年4月採用予定教員】 吉岡教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるMマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
2	教授	津田 茂子 ＜平成32年4月＞		平成34年3月	看護学研究法特論Ⅰ※ 看護理論特論 療養生活支援看護学総論※ 小児看護学特論 小児看護学演習 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	【平成34年4月採用予定教員】 津田教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるMマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
3	教授	小薬(小薬) 祐子 ＜平成32年4月＞		平成34年3月	看護教育学特論 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	【平成34年4月採用予定教員】 小薬(小薬)教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるMマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。
4	教授	志田 久美子 ＜平成32年4月＞		平成34年3月	看護教育学特論※ 多職種連携特論※ 看護学特別研究Ⅰ 看護学特別研究Ⅱ	【平成34年4月採用予定教員】 志田教授の担当授業科目を講義し、研究指導のできるMマル合の資格があり、60歳未満の准教授以上の教員を原則として公募により採用する予定である。